明治十年
前後一ツ橋大学共議會演説筆記

共議會

特別
14
1919
744

特
1919
143
744
留
327
10部

古聖賢孝子大業ヲ表ニ顕シ名譽ヲ不朽ニ垂ル、所以ノ者ハ其ノ志ヲ
意而已古来大志ヲ抱キシ賢明君子之德行ニ於テハ勉厲辛苦日
一日ヨリ進ミ其ノ業ヲ遂ケ終ニ其ノ大成ヲ期スベキ豈人事貴キ
ヲ護ハ上ヲ可ンヤ就中「ウワト」傳「ロコンブス」ノ大志「フランクリン」ノ偉
業可ヒ以テ子弟ノ斗擻和蘭ノ学士「ヒニーユス」ノ学業ノ如キ皆ナ勉厲
辛苦シテ然ル後ニ此ノ大業ヲ成ス者ナリ是ニ亞米利加合衆
国ハ昨日ノ賤ヨリ高名貴者ト為ル同氏ノ志ノ深ク行ノ実
温厚ナル誠ニ子弟ノ教訓ノ模範ト為ル者ナリ同氏其ノ初メ印書家ノ
工夫ナリ然レ共常人ト思想ノ異ニシテ十二德ヲ作為シ簿冊ノ巻
首ニ記載シ簡ナル釋文ヲ加ヘテ吾カ言行ノ斯德ニ違ヒシヤ否ヤ
ヲ已レノ本心ニ着シ過有ル時ハ其ノ冊ヲ記号ノ印點シ
ヲ附シ已レノ心ヲ警メタリ抑モ佛氏ハ北米ノ「フィラデルフィア」ニ生ル

其祖先ハ英国人ナリ同氏五十三ヲ物質学ヲ学ビ雷柱
及ビ電気ノ大発明ナセリ西暦千七百七十六年米国改革
ノ砌人民ノ公撰ニテ文官ノ長トナリ米国ヲシテ不羈独立
国ト為シタルハ多ク氏ノ功績ナリ

十二 徳行

第一 攝生（飲食逸食スルヲ勿レ）

攝生トハ飲食ノ適度ヲ度ヲ節シ身体ノ保ヲ護ヲ為ス
ヲ云フナリ假令大志有リト雖モ身体強壮ナラサレハ亦
何ヲカセン就中学業ニ心思ヲ委ス者ハ其道重キ
ニ居ル元来情ハ飽食ノ増長ヨリ起ル者ナリ放飲放
食シテ身ヲ軽シスル者ハ人民ノ地位ニ居ラザル者
ニテ古ヨリ東狄ト云ヒ野蕃ト云フモ皆ナ此法ニ戻ル者ニテ

禽獸ト迄ニトモ云フヤ元来損生ハ飽食之レヲ云フヤ元来損生ハ飽食
ノミニ非ス飲食ノ適度ヲ分限ヲ護ルノミニ非ス損生ノ
道ハ人ノ人タル身体ノ責キヲ守リ苟モ身体ノ健康ヲ全
フスルハ人身ノ本分ナリ不時不食飲ヲ得失ハル不食其為
ヲ得サレハ不食ト云フハ攝生ノ部ト云フ可シ

第二 沈黙（言語ヲ適度ヲ守ル可シ）

沈黙トハ言語ヲ慎ニシ勉合スル意ニ非ス交際應對ハ論
言語ヲ要スルニ謹慎ヲ加ヘ徒ラニ多言ヲ為サハ謂ナリ事
物ニ慎ムト雖モ多言ト不言ト唯ノ精神ノ思ノ謹慎ヲ
限制スルハ責ヲ自カラ己ノ本心ニ認ニ顧ミ言語ヲ発
スルニ定度ヲ立ツルヲ要ス人ニ三寸ノ舌ヲ以テ五尺ノ身ヲ
破損スルト是レ沈黙ノ道ヲ守ラス己レノ本心ニ之レヲ

者ニ於ハヨリ言語ノ失キカ故ニ法ニ身ヲ言ヒ己ヲノ恵
害ヲ起ス、臺アレハ其顔色顕ハレ心ニ思慮事アレハ遠ク
之レヲ言ヒ発シテ之ヲ他人ニ喻ス其多辯ハ人情ノ常ト
ナル慣習ノ多ク弁悪弊ヲ改メテ自カラ謹ミ守ルヲ
云フ元来慣習ハ生来ヨリ甚タ立ツル者ニシテ自然ニ非ス
故ニ亦他ニシテ自然ト大人ノ交ヲタル者ハ最モ注意スヘ可
キ者ナリ未前ニ保護之法ヲ加ヘテ沈黙者ヲ育
成スヘシ辯ヲキ人品サシ人ノ行状ニ於ケル言行一致
スルヲ以テ自大ノ良順ト為ス沈黙ハ言語ヲ縮少
スルノ謂ニ非ス言フヘキハ言ヒ不可言ハ不可言

第三　順序（漸ニ行フヘシ）

順序トハ事ヲ逐テ漸ニ行ハスト苟モ漸ニシテ事ヲ行フ
ノ謂ニシテ倹ニシテ急ニ遂ニ其ノ大成ヲ期スノ道ナリ
猶ホ遠キ往リニ必ス近キヨリスルカ如シ高キニ登ルニ
必ス卑キヨリスルカ如シト一朝一夕ニ事ヲ成シ思誤
ハフカレ数ニ順序アリ序ニ順序アリ学フニ順序アリ
天下萬物皆ナ順序アリ順序ハ何事ニ係ラス唯ノ順
序ヲ以テ次第ヲ誤ハフ無キヲ以テ斯道ノ大本ト為スニ
非ス戰々兢々トシテ深淵ニ臨ミ如ク薄氷ヲ履ムカ
如シトハ順序ヲ行フニ正直ニシテ存心ヲ以テ倹ニシテ天
理ニ背カサルノ謂ナリ君臣父子夫婦兄弟朋
友ニ順序アリ若シ斯道ニ違戻スレハ君不君子不父
子不子ノ域ニ至ル可シ譬ヘハ馬ノ一日ニ千里ヲ走ルト
牛ノ千日百里ヲ耕スト皆ナ其ノ所為大ナリト雖ト

馬ノ一日ニ千里ヲ走ルハ見シ順序ニ違フ者ニシテ後チ
殘ト死スル苦ニ見ハ牛ハ十日ニシテ百里ヲ耕スト雖モ
犢ハ童子ニテ百里ヲ耕スノ力アリ見シ則チ順序ニ
戻ラサル者ナリ

第四　確志（志ヲ定ムル之ヲ遂ルヲ得可シ）

確志ハ思慮ヲ慥ニシテ永遠ニ意ヲ置キ事物ニ迷フ
事無シ一所スレハ必ス之レヲ為ス事業ヲ全フ
スルノ大本ナリ故ニ志ハ大ナラン欲シ心ハ小ナラン要ス
何トナレハ人ノ世ニ身ヲ處シ事ノ是非得失ノ區別ヲ
立ツ或ハ又レヲ成サント欲シ或ハ之レヲ停止セント欲ス
スル心意ノ擾ヲ興ル所ハ志ヲ左右シ精神之レヲ掌
ドレハナリ陽氣發處金石亦透精神一到何事不
成ト古聖人ノ言フ事アリ見シ即チ確然不拔事
ヲ維持スル道ノ基ヲフ所ナリ失シ業ハ動ル二精キ
者ニシテ蝕ハザルニ非ス不当也

第五　節儉（身体ニ分限ヲ定ムヲ得可シ）

節儉ハ総テ事ヲ處スルニ速度ヲ立テ天賊ノ良財ヲ
無益ニ費スヲ無リ者益ノ事用ニノミ之レヲ供スルノ
謂ナリ元来節儉ハ人ノ身ニ於ケル一家ニ於ケル一國
ニ於ケル皆十同一ニシテ一身ノ節儉ヲ失ハ其身ヲ
亡シ一家ノ節儉ヲ失ハ一家ヲ失ヒ一國ノ節儉ヲ失
ハ一國ヲ失フ元来節儉ハ敝腹惡食惡家ニ住スル
ニ非ラス只タ其ノ速度ヲ立ツルヲ云フ衣腹外
容而已ニ非ス内身ヲ保ツ誰ス家モ亦然リ

節使ハ經濟學ニ傅スハ者ニシテ一朝一夕ニ解リ能ハス
依テ之レヲ略ス

市島謙吉稿

國ヲ興シ国ヲ強クシ国ヲシテ尊カラシメ国威ヲ海外ニ及シ兆民ノ心ヲ得驕傲ナル外国ヲ服スルモノハ兵ヲ練ルニアルカ貿易ヲ盛ンニスルニアルカ民選議院ヲ設立スルニアル乎曰ク此ノ数ノ者ハ皆ナ非ナリ然ラバ則チ何ノ点ニアル乎曰ハク人民ノ品行ヲ矯正スルヿナリ兵力強ク貿易盛ナリト雖モ人民ノ品行正粛ナラザルキハ蹤令一時ハ盛大ヲ致スト雖モ豈ニ之ヲ永久保ツヿヲ得ンヤ此ノ古今東西ノ史乗ニ徵スルモ瞭々乎トシテ明ナリ我輩史ニ徵スニ彼ノ往昔ニアリテハ名ヲ世界万国ニ晃々タラシメ外国ヲメ攻入ルヿ能ハザラシメシ羅馬帝国三百六十年頃東西ニ分タレシ後チ間モナクハンス ウアンダルス及ビゴス等ノ猛悪人種ニ攻撃セラレ一朝滅亡セシ所以ヲ尋ヌルニ人民以前ノ品粛品行ヲ失ヒタルニヨルナリ又之ヲ支那史ニ徵スニ紀元前五

百年仲尼在世ノ時ニ当リテハ実ニ我輩ノ師ト稱シテ恥カリシガ
現況ヲ見ルニ大ニ昔日ニ異ナルアリ之等ハ皆ナ人民ノ不行ニシカラ
ザリシニ根スルナリ
吾輩熟ニ方今ノ大勢ヲ洞観スルニ実ニ云フニ忍ビサルモノアリ則
チ学生ニメ或ハ酒色ニ耽リ或ハ堂ニタル子負ニメ人妻ニ密通シ其
他商人ノ奸負等夏他学ルニ足アラズ今此等ノ輩ヲ矯正セズンハ何
ヲカ人民ノ不行ヲ正粛セシ国家ヲ盛大ニシ威ヲ海外ニ発タタサシ
ムヲ望ミン乎故ニ我輩ハ当今ノ急務ハ不行ヲ矯正スルニアルト云フモ
甚シキ過ニアラザル信スル也
人アリテ或ハ云ハンカ高尚正粛ナル品行ハ上等社会ノミノ行ハルベ
クシテ下等社会ニ行ハル可カラズト此等ハ誤リノ尤モ甚シキ者也
夫レ不行ハ別ニ天賦ノ才ヲ要セズ他人ノ助等ヲ要セズメ自ラ修ム
ラルベキ者也請フ試ミニ二三ノ例ヲ掲ケテ陳セン近世ニ在リテハ
弗蘭西土花納爾ノ如キハ其人ナリ西徳尼斯密士等ニ花氏ヲ評シ
テ神命下ル成ハハノ面上ニ印スルガ如シト云ヒリ之ヲ以テ同氏ノ行状ノ
正直ナルヲ徴スニ足ル同氏ハ壹丁角ニ住セル商人ノ子ナリ貧ヲ以テノ
故カト云ヘバ花氏及ビリノ親族ハ曾テ餘レル銀弐一箇ヲ考セズ吉
職ヲソラノ故カト云ヘバ花氏ハ掩蔽ヲちかん小祿ノ為ニ逐ズ才能ヲ
ソテノ故カト云ヒバ花氏ハ等ノ資性ニシテ英才ノ彰著セルモノナリ
稱オヲソテノ故カト云ヒバ説話甚タ穏静ニメ人ヲ驚駭セシモノニ非
ズ然ラバ何ヲソテ之レヲ得メルヤ蓋シ同氏ハ良美ノ本欲良美ノ
心情ヲリテ教使ニシテ職務ヲ勉ムル人ナリ
孟典ハ法国ノ文行衆ニ頭ハシシ人ナリ法国内乱アリテ両党相戦
ヒシ時孟典門ヲ鎖ザリシトゾ傍者ニシテ賛シテ孟氏一

身ノ不行リノ危難ヲ防ノニ足ルヲ逆ニ陸ノ兵馬ニ勝シリトスヒリ
今ノ例ヲ以テ考フルニ不行ナル者ハ上下等ニ等ヒ貧富貴賤ニ等
カラス只身ヲ修ムル清潔ニメ事ヲ行フヲ公道ニシテ決其実ニメ作
偽ナラス卑下ナル人ニ慈愛ヲ加ヒナハ自ラ修ム得ラルヘキ也故ニ不行
ナ矯正ニスルハ学士ノ学業ヲ研究スルニ比スレハ其ノ容易ナルヨ
我輩ノ賢ニシテ行タカルヲ以テ皇室ヲ安ンスルヲ有ロスシテ
一国ヲ盛大ニスルヲ得ルハ安ニ病快ナラスヤ我輩一国ノ分
子タル者ニ愛マサルヘカラサルヨ

下等社會教育論第一編　明治十年二月演説

共話會廉員　市島謹吉　馳草

俚言ニ曰ク口ニ正直ヲ唱フル者ハ正直ノ実ナリ身ニ壮麗ヲ飾ル者ハ壮麗ノ行ナリト
彼ノ頭ヲ回シ袍ヲ角ニスル者ハ之ヲ指シテ僧トスヘキ乎醜状淫態其金科玉條トシ
朝ニ唱ヘ夕ニ誦スル教ト齟齬スル月電ノ如キヲ如何セン彼ノ婀娜タル美人顔ハ桃
李ノ如ク肌ハ芙蓉ノ露ヲ疑シムルカ如ク其清艶人ヲシテ一瞥魂飛心醉ハシムル者之
ヲ指シテ温柔ノ女子トスヘキカ美女ハ却テ淫逸放蕩ニシテ倦ク天下国家ヲ亡ス者
アルヲ如何セン天下ノ事物外貌内状ノ能相反者ハ実ニ稀ニシテ之ヲ見カルトコロナリ
故ニ事ニ当テ軽ク外貌ヲ以テ内情ヲ推スノ危キハ累卵ヨリ只ナラサルナリ譬ハ今此ニ
病人アテンニ其声音顔色飲食挙動ヲ常人ニ異ナルトコロナリ守伎然トシテ坐ス
サル者アラハ庸医ハ必ス外貌ヲ以テ軽シ内部ヲ推シテ以テ憂フルニ足ラスト為サン
然リ而シテ之ヲ名医ニ見セシメハ或ヒハ驚愕シテ之ヲ投スル者アラン一国ニ於ケルニ又

之ニ異ナルトコロナシ天下外貌ニ憂フベキ者アレバ黄吻ノ改学者ハ是ニ固ヨリ之ニ
施スノ術アルベシ然リ而シテ天下ノ外部ハ甚タ治平ノ如シ一モ憂フル処ナキカ如キモ其実
憂フベキ者アルヰハ之レ黄吻ノ改学者ノ能リ救ヒ得ベキ所ニ非サルナリ
我国外国ト交際ヲ通シテヨリ百般ノ事物尽ク彼ニ取ラサルハナシ外面上ノ改進
ハ実ニ一ニシテ足ラザルヲ以テ論者ハ或ヒハ揚言スル者アリ曰ク文運隆盛開化日々
進ミ改度月ニ改ルト同ク学術日々開ケ技芸月ニ進ムト同ク英明官吏上
ニアリテ能其職ニ勉ヒ下人民鼓腹撃壤歓娯ノ色アリト同ク何ソ
聲々嘖々トシテ止マザル然レドモ一歩ヲ退テ熟察スルニ読者ノ言ハ所謂外貌ヲ
見テ内部ヲ推ス者ニシテ彼ノ婀娜タル美人ノ顔色ニ魂ヲ奪ハレテ其
黴毒ノ存セヲ忘ルルト一般ノ見而已其危キ病ヒ重痾ニ於テルカ如
キ心ニ非サルナリ

仏国ハ巴里斯ナリ巴里斯ハ仏国ナリトヒ語ハ略易ナル世ノ時夏世者

ノ仏国皆其全国ノ権柄ノ尽リ中央政府ニ蒐集シテ人民ハ自助ノ心ヲ失
ヒ百般ノ事物尽リ政府ニ依頼シタルヨリ歎ヒタルナリ我輩又今此輩ニ歎
ヒ日本ハ東京ナリ東京ハ日本ナリノ語ヲ以テ我国今日ノ形情ヲ評セサルヲ
得ズ其然所以ノ者ハ之ヲ證明スルニ多言ヲ要セス一例ヲ以テ示スニ足ル者
アリ曰ク彼ノ田舎僻邑ニアリテ僅園料数スルハ封建時上等社会ノ大抵冠
ヲ掛ルノ後學トスルトコロナリキモ今ヤ農事ハ大ニ人ノ擯ケスルトコロトナリ今日
ノ難業ハ悉ク廟堂ニ主ヲ為ス雲ヲ掴ミ高閣石屋ニ寝食シテ華
奢ヲ尽ス之ニ限リスルカ如キ官吏ニ書生ニ一トシテ民間ニ独立シテ政府人民
ノ間ニ立テ人民ヲ誘導シ共ニ開明文化ノ域ヲ欲スル者アリサシテ洋書ヲ
解スルニ至レバ各々競フテ上京シ悉ク東京ニ大磁石アリテ之ヲ引リ者ノ如シ之
日本今日ノ中央集権ヲ證明シテ餘蘊ナキヲ信ズルナリ軽躁浮者ハ
洋人ノ日本ヲ指シテ東洋ノ英国ト評シタルヲ将ヲ直チニ我開明ノ実ト

英国ノ如ク然ンカト揚言ス者アリト雖ドモ又医ノ重病ニ於ケルト異ナ
ラサリシ四年人ノ我国ニ来ルヤ東京ニ来テサルハ他ノ諸港ニ来ラサルハナシ只
四郎ノ形態ノ如キハ固ヨリ彼ノ知ル所ニアラサルハ只都府ノ景態
ヲ以テ評シタルハ疑フ容シカラサルトコロナリ而シテ東京ハ日本全国改進ノ蒐集スルトコロ
ナリ則チ最モ直サズ日本ノ外貌ナリ嗚呼軽躁論者モ又外貌ヲ以テ内部
ヲ窺フノ弊ニ陥リタル乎
軽躁論者ヲ我輩ハ三千五百万ノ兄弟タル義務ヲ以テ敢テ衷告ス請フ少シク
架空ノ論ヲ止メ髯奴ノ論評ニ惑溺セス我国今日地方田舎ノ状態果シテ如何
ナルヤヲ探究セヨ今日ハ果シテ併朋ノ稱ヲ下スベキカ人口ハ日一日ニ減少シ田野ハ
年一年ニ荒蕪シ水陸運輸ノ便ハ未ダ併ケス隄防橋梁未ダ全ク修
繕ヲ加ヘス水災ニ苦ム者年トシテ非サルハナシ然リ農夫ノ活路如何ヲ
察スレハ蓋シ名状シカタキ者アリ農夫ハ朝ニ星ヲ戴キテ出テ夕ニ月ヲ

帯テ帰リ夏日炎熱厳冬ノ酷寒ヲ凌フニ堪アラサルナリ而シテ妻ハ縫織洗
濯シ子ハ親ノ扶ケルモテ日夜汲々怠ラサルモ或ハ活路ヲ得サルモノアリ
其食物ノ如キハ粟稗芋糖ニ非レハ所謂カテ飯ニシテ米飯美獣肉ノ如キハ或
ハ一週一度日ニ上サルヲアリ農夫ノ活路ニ苦ムハ斯ノ如ク其急ナルヲ以テ親ハ
其子ノ一日モ早リ生長センヲ願フヤ実ニ一日三秋ノ念ヲ以テ漸ク七八歳ニ
至レハ之ヲ習字読書ヲ禁シテ稚児ニ供ハシメ漸ク長シテ十二歳ニ至レハ
之ヲ鋤犂ヲ手ニテ田野ニ出テ耕耘業ヲ教ユ故ニ少シク習ヒ得タルノ
字モ長スルニ従テ漸ク忘却シ成人ニ至テ一丁字ヲ読ム能ハサルニ至ル之
疑フニ足ラサルトコロナリ
農夫不学無智其ノ如ク然レトモ縦令貧困ニ束縛セラルルモ情慾ヲ
抑制シテ永遠長久ノ策ヲ設ケ己ノ幼ニ計リ又子孫ノ幼ニ憲ヲ識ス
故ニ其子漸ク僅カニ十七歳ニ至レハ則チ之ニ妻ヲ迎ヒ已ハ一日モ早リ隠

居シテ艱苦ヲ免カレンヲ思フ而ノ幾ハクモアラズメ数子ヲ設ケ已ノ弟ト
ニテ子ト別ツ能ハサル者アリ而シテ老農ノ説クトコロニ據レバ往時ハ親在存
ノ中ニハ産ヲ見ルモノ甚タ稀ナリキモ今日ハヤレヤコヲ見ルモノ少ナカラズト
故ニ下等社會ニ在テハ却テ人数ノ多キ者ニ大抵一戸ニ平均八今ヨリ少
ナキモノアラズ以テ下等社會ノ厳慮ニ堪ヘキヲ見ルニ足ラン
以上陳述スルトコロハ方今田舎一般ノ状態ナリ豈ニ之ヲ文明ト謂フヲ得ンヤ
豈ニ之ヲ教化全国ニ洽シトスルヲ得ンヤ之ヲ東京近傍ノ地方ニ比スレバ
蓋シ天淵ニ異ナラサルナリ嗚呼彼果シテ罪アル乎何ソ天ノ幸福ヲ分ツ
ノ公平ナラサル其斯ノ如キヤ我同業諸君ヨ諸君ノ職務ハ日本人民
ヲ誘導シテ共ニ開明ノ域ニ入ラシムルニ非ズヤ然ラバ之ヲ救済スルノ
方法ハ我輩ニ非ズメ誰ニカ需メンヤ諸君豈ニ之ヲ對岸ノ火視シテ
然々ニ附スベケンヤ

教育法 第一編

大屋権平述

本説ハ之ヲ分チテ三編トナス即チ
第一編 略ケガンベカラザル失錯
第二編 注目スベキ要目
第三編 異様ノ用ニ供スベキ適宜ノ方法
第一編 略ケガンベカラザル失錯
本編ハ当時流行スル失錯ヲ主目ヲ陳述スルヲ
以テ主趣トス
第一条 位置ノ事、 当時ノ校舎ハ多ク喧しく塵立
ケ且ツ危雑アル、街道ニ設ケラル。 又更ニ觀外觀
ノ不体裁ヨリシテ生徒ヲシテ登校ヲ忌嫌セシメガルモ

之ヲ基ハシメザルナリ蓋シ其校舎ハ物品及ビ勞力ニ於テ非常ノ倹約ヲ為シタレバナリ

第二条　教室　男女ノ為メニ適宜ニ設ケタル別ノ教室及ビ生徒ノ知識及ビ起居ノ目的ニ適シ、

第三条　光線、窓ハ壁ノ三四方ニ之ヲ開クモ大陽光線ノ盛ニ入ル陽ノ設ケタルベキ事及ビ盲ナシ、右品ノ設ケナキヨリ生ズル弊害ハ、日ノ光線ノ直射ヲ為シ眼ヲ傷ハ、日ク戸外ノ事物眼ニ弱シ生徒ヲシテ獨義ニ向テ注意スルヿ少ナカラシム。

第四條　空氣流通　適宜ノ呼吸法カシ、設ケナリシテ已ニ呼吸シタル悪気及ビ身体ヨリ蒸發スル不潔氣

丸屋

ヲ速ヒ出スノ方便ナシ

第五条　寒暖、天窓、床等ノ破壊及ビ間隙ヨリ寒氣ニ氣襲入スルヿ能ハズ之ヲ防ガズ、生徒ハ已ニ呼吸セシレ且ツ暖メラレタル空氣ノミヲ呼吸シ、且一室ノ暖暑定マラズ、俄ニ暑ク俄ニ寒ク、一隅ハ暑ニ過ギ一隅ハ寒ニ過グルノ患アリ　教中氣ノ暗ラガハ大ニ害アル者ナリ

第六条　机、腰掛設置、机、卓子ノ作方悪ク、且其設置モ亦悪シ、其設置タル生徒ノ為メニ不便ニシテ且ツ教員ニ對スル体ガシアリ、或ハ生徒ハ戸窓ニ對シ常ニ戸外ヲ窺フ如アリ、或ハ生徒相對シ相親指通談スルアリ、又タ席ヲ起居、往来ニ不便ナルアリ。而シテ其卓子ハ高キニ過ギ又長ク過ギ脊ノ高スベキ適宜ノ設ケナシ

殊更ニ幼少ノ生徒ノ為メニ大害アル者ナリ、

第七条　器具　教科書、教具ノ類ヲタル学校ニ欠クベカラザル黒板、地図、時辰儀、寒暑計、及ヒ其他ノ器具ノ備ヘナシ

第八条　以上陳述スル諸失錯ナキ校舎ト雖モ次ノ種々ノ失錯アルヿヲ免レ難キ事ロスベキ緑草、樹木、籬垣、及ビ花枝ノ類附ナシ、上衣、帽子ノ置リベキ棚ノ設置ナシ、井戸、溜池、[illegible]暑冷ノ用ニ供スルナシ、水鉢、手拭等ノ清潔ヲ欠クルナシ、男、女ノ為メニ設クル高過ノ両便所ナシ、便所ハ或ハ人ノ往来スル所ロ或ハ運動場、教場ノ近所ニ設ケラルル、アリ

丸屋

以上八ヶ条ハ実ニ我輩ノ現ニ見聞スル所ロノ校舎違等ニ懸ル失錯ノ重立タル者ナリ

校生徒等ニ於テ注目スベキ要目　第一編

大屋權平述

校生徒等法　第一編

抑々本編ノ主趣タルヤ前編ニ於テ陳述シタル教育ノ要旨ヲ敷衍ケガルベカラザル失錯ヲ正スニ在リ故ニ本編ニ於テハ只タ要用ナル科目ヲ掲載スルヲ以テ足レリトス

第一条　校舎設置ノ位置ハ當ニ得ガルベカラズ

第二条　校舎ハ前面ニ是非トモ一庭園ヲ設ケガルベカラズ

第三条　校舎ニ加フル程度ハ教師生徒ノ為メニ別ニ一室ヲ置クベシ又年齢幼子掛ケ等ノ教ナカルベカラズ

第四条　校中塵ヲ離ル、ヲ要ス

第五条　授業室ト自修室トハ別ニ之ヲ設ケガンベカラズ

第六条　光線ノ事注意セガンベカラズ

第七条　温度　日ニ

第八条　空気流通　日ニ

第九条　机　日ニ

第十条　席　日ニ

第十一条　机ト机ノ間又卓子ト卓子間往来道ヲ空クベシ

第十二条　教員手当　書棚、黒板等ヲ云フ

第十三条　縦覧室及器械室ハ学校生徒ノ為メニ

別論日学生ノ成ス年ノ故障アリテ登校スル能ハザル者ノ為メニ設クル事

第十四条　外観亦美ナラガンベカラズ

第十五条　教師部ハ校舎ノ構造ニ設クベシ、也ニ寒暖ニ応ジテ其経済上ノ便ヲ知ルナリ

第十六条　両便所、設置所場天ニ注目セガンベカラズ

第十七条　男生徒、女生徒、体操見物遊戯（但シ就学ノ猶予ヲ敬シ且自体ノ強弱ニ応ジテ適宜ニ設ケガンベカラズ）

明治十二年五月廿日演說

埃及國造營模様　　大屋權平

「カイロ」ヨリ「ニーゼヤ」ニ至ル五百英里間ハ一面ニ埃及國ノ旧跡ニシテ是ニ見ルベキモノハ其容積ノ偉ナル丁、列ヲ為シタル建築ノ壯觀ト其列ノ嚴肅ナルトナリ〻天未埃及人ハ其所為ヲ永久ニ傳ヘントス難望スルノ人民ニシテ其建築ヲ列ニ作リシハ蓋シ其輿望ノ祝念ドエフベシ

本國人民ハ古代ヨリシテ岩石彫刻ノ術ニ富ミ其術ニ於テハ嘗テ他人ニ方リシフナシ、寺院ヲ建フルニ用ユル大石ハ皆四角ニ削リ、其之ヲ裝置スル實ニ巧ミ奇ニシテ各石ノ相接スル線ハ得テ見ルベカラズトエフ

「ピーブス」石

撲及國ノ南端ニ位セル去奇ノ其形跡ヲ今日ニ殘スノ所ロノ最モ古代ノ一都奇ナリ」去奇ノ建築ト其時代ヲ指シド一ニハ（仁毋奇ノ造營樣式ハ年ニ之ヲ說キタリ）初ノ撲及國ノ首奇ハ志奇ナリシト雖モ後「メムヒス」奇ニ遷都ス」故ニ其頃以來志奇ハ甚ダ要用ノ奇トスルニ非ザレバ其建築ニ用ヒタル材料ハ容易ニ持チズ且ツ大都ナルガ故ニ志奇ハ三千有余年間其形跡ヲ存シタリ

志奇ハ世ニ所謂百門ノ大都會ニシテ其門ハ今日ニ至ルマデ尚存在ス也未ダ國史ニ曰ク戰時ニハ此一百門ヨリ各二百輛ノ戰車兵卒各二千人出陣シタリ、又本奇ニ用ユル柱ノ大ナルモノ其直徑一丈四尺ニ至ルアリ、又或帝ハ其臣民ニ命シテ一ノ大湖ヲ鑿ラシメタリキ其湖タル周囲九四十五英里ニシテ其深キヲ大洋ノ如シ、又ヲドリンス屋ヲ

造リタリ、其屋タル大理石造リニシテ室數三千、其手數ハ地上ニ在リ尚ホ其手數ハ地下ニ在リ其工階ニハ撲及人ノ帝ニ信神スル獸類ヲ置キ其下階ハ[illegible]國帝ノ墓埋所ナリシ、又三千年ノ星霜ヲ歷タルノ孔雀ノ墓地ヨリ拔キ出サルヽアリ其孔雀ハ最モ人目ヲ驚ナス者ニシテ其大ナルモノハ高サ五十丈ニシテ其面積ヲ覆フヲ以テ[illegible]ナリシ

撲及國ノ造營及ビ刻象カ志奇ニ存スル者ヲハヲ尤モ古キ者トナス、加ヘニ志奇ノ造營、刻象ヲハヲ撲及國ノ技術ノ最美、最巧ノ考証トス、如何トナレバ撲及國ガ嘗テ帝脈國ノ影響ヲ受ケタル以前ニ多分ノ進歩ヲ成シタル征跡有レバナリ」

古府ノ童立タル殘樓ハ寺院「コロスレー」「スプレンクス」「ミラミッド」等ナリ、此等ハナイル河ノ岸ニ擴カリ東西凡六英里
古府ノ西極ニカリカ繁昌ノ地ノ俗唱スル所ロアリ此所ノ殘樓中ニハ岩石ノ中ニ刻ミタル臺アリ、其臺ニハ樓様付セアレバ書付ヘアリ、其樓様ハ其畫共ニ數週日前ニ彫刻セラルカ如ク分明ナリ』

丸屋

明治十二年十月十二日演說

大屋權平

尖方塔ノ說

年輩ハ本年五月中埃及國造營ノ情態ニ付テ聊カ陳述セシ事アリタレ共其說タルヤ實ニ疎漏ニシテ余輩ノ大ニ滿足セザル所ロナリ故ニ今タハ今少シク尖方塔ノ事ヲ述ベ聊カ欠ヲ補ハントス、以下年輩ノ適宜ニ據リ章ヲ分ツト雖モ實ニ須臾ヲ正シクシタルモノニアラズ後日見聞スル所ロアラバ追章之ヲ陳述スベシ

第一章　尖方塔創立ノ年代

抑モ埃及國ハ全世界中最ニ早ク開化シタル國ナレバ遠時ニ至リテモ其殘蹟尚ホ見ルベクシテ其話柄ノ驚クヘキモノ實ニ夥シ而シテ其古蹟ハ多クナイル河ノ西岸ニ瀕ス、就中尖方塔ハ其最モ昔シキモノニシテ其粧飾ヲ見ル毎ニ懷古ノ情ニ堪ヘザルナリ蓋シ政

雖也大川に開化の光鞭を打チタル希臘人民、尚ホ「カスピアン」海
岸に牧畜セシ時に當リテ地中海南岸に早クモ如是開化の現出
セシヲ懐ヘバナリ」

余輩嘗テ世未萬國史ヲ讀ミシニ其書の言フ所ロニ據レバ埃及
の初メテ建立シタルハ西歴紀元前九千年に在リト又曰ク創立者の
姓名ハ詳カナラザレド蓋シ帝王の都陵の為メに建立セラルナリト
「ボナルド」氏著造營幾妙ナル昏に據レバ埃及国ホ四朝の帝
王「チエオプス」「セフレ子ス」及ビ「マルリナス」の三代の建立スル所ロニシテ其年代
ハ今ヲ距ル凡ソ四千年余ナリト
「バルチユ」氏著埃及大古史ヲ按ズルニ才一朝ホ二代「アソシス」王の世埃及大
ヒに飲饉ス、今ヲ一世の埃及国ホ「コチヨメ」即チ黒牛京に建立ス(アソ
シスハ埃及創業者ナル「メニス」の子ナリ)埃及歴ハ尚ホ「サカーラ」に在リテモミ

発見セル埃及古蹟中最モ古代の名ナリ(其結構の如キハ之ヲホ二章に述ブ)又タ
ホ二朝の頃「メイドル」尖方塔ヲ建立セレリアリ、次テホ四朝ホ一代「チエオプス」王「ギゼー」
に於テ埃及国中最大の尖方塔ヲ建立シタリトス(三四五六章に細陳ス)
余輩ハ以上陳述セル諸説中何レカ信ジテ何レカ偽ナルヲ知ルに由ナシ、然
モ猶ホ前に説の如キ或ハ最大ト最初ト混ジタルナランカ然レバ最初建
立シタル尖方塔ハセミ四千五百年に若シクハ五千年に向ントスルの星霜ヲ経タ
ルモノト考フベキ大過ナカルベシ、
世未万国史の載スル所ロに據レバ「ミスレーム」即チ「メニス」の初メテ埃及に極
民シタルハ西歴紀元前二千百八十六年ナリト蓋シ著者ハ之ヲ聖書
に取リタルナルベシ、然ルに他の歴史家(バルチユ氏の如シ)其時代ヲ西歴紀元
前三千年前後ナリトシ又二千年頃ヲ以テ埃及国の最モ盛ナル時期
トス、余輩ガ陳述シタル計二説ハ偏ヘに古の後説に本ヅケリ蓋シ

「バルチュ」式ハ英国ニ於テハ音名ノ古物学ナ百ニシテ現法英博物館
ナ東洋部ノ整理及ビ其他ノ諸務ヲ司リ殊ニ式ノ音迹ノ如キハ古物ノ
驗査ヨリ作リタルモノナレバ或ハ実ニ近キヲ信ズベカラン」

第二章　「アソレス」尖方塔ノ結構

「アソレス」尖方塔ノ周囲ハ三百九十四尺ニシテ其高サハ七十三度三十分ノ
角度ヲ以テ百九十三尺ニ上リシガ如シ此塔ノ建築ハ七段ニシテ用石ハ
石灰石及ビ花崗石ナリ、其建築ハ後世ノ尖方塔ニ比スレバ稍疎ニシ
テ未ダ全ノ其功ヲ峻ヘカリシ者ノ如シ
古第二章ハ全ク「バルチュ」式誤及大古志ニ據ル

第三章　「ギゼー」尖方塔ノ外觀

「ギゼー」ハ地名ナリ、式地ニ在ル尖方塔ハ「チエオプ」王ノ建立ニ懸ル所ロ
ノモノナリ、茲ニ「ギゼー」尖方塔トヨフハ一ニ倍称ニ據ル、

ニ尖方塔ハ即チ埃及国最大ノ尖方塔ナリ式シ全華ガ格別ニ其
外觀ヲ際立スル所以ナリ、　昔時ハ尖方塔ノ外面ハ全面赤
色ヲ帯ビ、其用石ハ数回研磨シタルモノナレバ全塔ノ壯觀ハ實ニ
石練ノ鏡ニ朱ヲ濯ギタルガ如クナリナラント想像スルモ其形
容少ニ過グルモ大ニ失スルヿ千萬アルマジト信ズ
其頂上ハ実ニ一個ノ尖方塔ヲ作シ高ク白雲ヲ貫
キ遠ク青天ニ媚ビ富嶽トシテ亜米利加大洲ニ鼓舞セシト
雖モ時世ノ運轉ニ隨フテ其尖尖ハ漸ク滅モシテ当時全
リテハ其頂上ハ一平面ヲ成スニ至ル、
大末該尖方塔ハ殆ンド五百尺（次章ヲ見合スベシ）ニ近キノ高塔ナ
レバ旅人ハ稍遠方ヨリ之ヲ望ムヲ得、故ニ旅人ハ稍遠方
ノ他ニ在ルニ当リテモ埃及塔ノ叢ニ接近シタルノ感ヲナズ、之レニ

據リテ旅人ハ著テ奉ゲテ該悟ヲ望ム毎ニ輙チ該悟ノ志魂ノ如クシテ人蹟ト共ニ進行シ去ルモノナランカノ感ヲ作ストミテ、

「ヴォルニー」氏ノ旅人ノ思想ヲ写出セル一句アリ、句タルヤ實ニ其實ヲ写シタルモノ、如シ故ニ余輩ハ之ヲ本章ニ譯出スルモ無益ニ非ザルヲ信ズ、

「ヴォルニー」氏ノ語ヲ解明スルモノナリ、

旅人ハ該悟ヲ目シテ志魂ノ如ク人蹟トモニ進行シ去ルモノナリト思想スルモ終ニ之レニ達スルノ期アリ、於是カ旅人ハ人生得癸ノ思想ヲ毒皆引抜ク能ハザルヲ得ズ其須臾ハ即チ、先ヅ第一ニ其頂上ノ高キニ愕キ、次ニ其面度ノ鋭キヲ怯レ、次ニ其面積ノ大ナルニ驚キ、次ニ全塔皆石ヲ以テ作ルヲ視其重量ノ多キヲ慮リ、次ニ其時代ノ古キヲ感ジ、次ニ一大喝、嘆シテ思ヘラク、嗚呼偉ナル哉人力

嗚呼大ナル哉人智、哉石工ニ作ル大塔ハ實ニ人間ノ作ル所ナルカ、之レヲ作リタル彼ノ人間ノ式麓ニ直立スル猶ホ小蟻ノ大象ノ下ニ匍匐ガ如ク然リ、彼ノ人間ノ身体ハ決シテ式塔ニ比スベカラザルモノナリ、嗚呼彼ノ小物ニテ此大物ヲ作ル実ニ愕ク余リアリ、嗚呼偉哉大哉智力、人間恐ルベシ、人間尊ブベシ、吁

以上陳ブル所ロハ多ク余輩自セノ想像ヲ交ヘザルナキニシモ非サレド決シテ旅人ノ異リバルノ思想ヲ写スモノニ非ズ、今法理文学ノ差アルニ拘ラズ苟モ学者ヲ以テ称スベキ人物ヲ以テ之ヲ觀ルモハ以上ノ感感ニ異ナルノ感ヲ生ズベキハ仮令ナラン力、

旅人ハ右ニ陳述セル種々ノ感覚ヲ生ズルモ其麓ニ在リテ全塔ノ壯觀目ニ余リテ其大弓面ヨリ之ヲ視ル能ハザルナリ、其大弓面ヨリ之ヲ觀ルヲ得ルハ即チ其頂上ニ登ルニ在リ、其頂上ニ登レバ直下

※ 薗、※ ノ所ロニ昏スベシ

三十六英里（我十里半ニ次ル）間眼ヲ遮ヘギル者ナシトニフ其壮觀ニテ
思フベシ、
元来該尖方塔ニ限ラズ自余ノ尖方塔共皆古シハ階級ヲ作リタルナ
レドモ近時ニ至リテハ石稜全ク消滅シテ鋭角ノ一辺ヲ為ス、其仮タ
ル頗ル急ナリト雖モ幸ニシテ用石凡テ平ナラズ故ニ登降大ニ便リ
但シ土人ハ能ク其登降ニ馴習スルヲ以テ苦ノ為ヲト雖モ他国人ハ
頗ル困難ヲ思フナリ、
今試ニ其頂上ニ在リテ一個ノ石ヲ抛グルモ其ハ石ハ該尖方塔ノ基
ニ達スル能ハズ必ズ其下部ヲ打ツトニフ、依是觀之該塔ハ実ニ鋭角ヲ
為スト雖モ其面積ハ大ナルヲ知ル、石ヲ抛ツ者其石ヲ塔基ニ達ス
ルノ容易ナランヿヲ思ヒ之ヲ抛ツノ後モ亦其基ニ達セシヲ思フト雖モ
其ハ石ノ塔ノ下部ヲ打ツヲ見テ初メテ塔ノ大ナルヲ知ルトニフ、

第四章「ギゼー」尖方塔外部結構

該塔ハ「ナイル」河及ビ「カイロ」府ノ中間ニ在リテ双方ヨリ相距ル二リーグ（我二里半）
ナリ、博士「リチャルド、レプシアス」氏（人物ハ之ヲ第六章ノ首ニ陳ブ）ノ説ニ據レバ該尖方
塔（自余ノ尖方塔モ多クハ同ク）ハ低キ平地ニ建立セラレ、能ク「ナイル」河年々ノ洪
水ヲ避ク蓋シ僅カノ丁歩ヲ進メバ洪水ニ浸カル、ノ患ナシトセザルナリ、該
尖方塔ノ底面ハ一ノ四方角ニシテ漸々七十四度ノ角度ヲ以テ頂上ニ、上リテ平膜ニ
達スル頂ノ平面ヲ為シ其上ニ其内部ヲ掘穿シ出セル一塔ノ痕アリ、且其上リ上
ル間隔リテ日結果ヲ發見スル云々（以上三行ハ第六章ニ大ニ関係アリ、四章ニ
於テハ之ヲ再陳セザルヲ以テ亘シク該者ノ注意ヲ乞フ）
「ボナパルト」氏ノ説ニ據レバ該塔ノ高サ四百七十尺ニシテ其幅五百七十尺ナリト
「ベルツヨニ」氏ノ説ニ據レバ其高サ四百五十尺ニシテ其基礎中七百四十三尺ナリト
以上「ボナパルト」氏及ビ「ベルツヨニ」氏ノ説トニフバ一ハ造塔後世、一ハ候及大古夫ノ

云フ、二説ノ説ニ右ノ如キ差異アレ氏該文方塔ノ工事ニ関シテハ其所説ヲ四シクスルモノ如シ即チ一説ニ據レバ三ヶ月滿期ノ夫役十萬人ヲ三十年間使役シテ「チエオプス」王ノ墓碑即チ「ギゼー」大方塔ヲ建立シ之ヲ飾色セシトス又一説（バルチエス）據レバ四三ヶ月滿期ノ夫役十萬人ヲ十年間使役シ都合四百萬人ヲ使役シ後二十年間ノ一年三十六萬人ノ割合ヲ以テ都合七百萬人ヲ使役シタリ故ニ人夫ノ總計一千一百萬人ナリシト、此説ヲ前説（ヰルト）ニ比スレバ一千一百萬人ト一千二百萬人ノ差即一百萬人ノ差アリト雖モ已ニ四五千年ヲ經タル事情ニ鑑キ一割未滿ノ差數アルハコレヲ僅少トナスモ可ナリ

第五章「ギゼー」大方塔ノ部 結構

余輩ハ前章ヲ題シテ「ギゼー」大方塔外部結構トシ本章ヲ題スルニ四内部結構ノ名ヲコレラスト雖モ大方塔ノ内外部ヲ分別スルハ易事ニ非ズ否寧ロ之カラザルノ事ナリ、余輩ノ所謂ル内外部結構トハ之ヲ内外部ヨリ研究シタルノ結果ヲ分ケテ斯ク題セシモノナリ、

該大方塔ノ内部ハ方ニ充滿セルモノ如シ、其内部ニ入ルニ只ダ一小路アリ、其路尤タル大方塔ニ比スレバ實ニ小ナルモノニシテ丘麓ノ一小土龍口ニ異ナラザルナリ、該路口ハ平地ヲ上ル四十五尺ノ位置ニアリテ之ヲ入レバ暗々冥々トシテ實ニ西東ヲ辨スルニ困ム、尺地ヲ執テ漸リアレバ行歩尤モ難ク最モ危ク、寒氣凜々トシテ、大氣緻密將サニ人ヲシテ窒息セシメントス、且ツ洞中狹小ナルガ故ニ旅人ハ低頭シテ進ム可ス、而シテ其洞ニ入レバ実ニ一筋ノ道路アルニ非ズシテ一ノ底不知ノ深淵アルナリ、旅人出入スル路トモ云フベキモノハ即チ梯子ナノ如キモノヲ式深淵ニ架シタルナリ、其ノ覆道ト名ブク可キ路ヲ渡リ行クヿ暫クシテ一ノ下段ノ覆道

ニ達ス、於是旅人ハ匍匐シテ一ノ嶮坂ヲ横ダルヲ得ズ、其嶮坂ノ直下ニ当リテ一井アリ、其井ニ胸壁ナク亦蓋ヲ備ヘズ故ニ最モ危嶮ノ路トナス、尋テ旅人ハ案内者ニ扶ケラレテ僅カニ進ムヲ得遂ニ一棟ノ石室ニ達スルヲ得、該石室ヲ皇后殿（クイーンズルーム）トシテ、又進ンデ皇帝殿（キングズルーム）ニ達ス、此二殿ヲ見物スルハ即チ旅人ノ目的トスル所ロナリ、此ヨリ帰路ニ着ク事モ其困難前ニ異ナラザルナリ、再ビ天日ヲ仰グノ時ニ當リテハ旅人ハ実絶人タルニ異ナラズ、

此地中ニ在リテ大砲ヲ発スルハ旅人ノ常ニ為ス所ロナリ、或ハ之ニ止マラズ是所ニ鉋発スルアリ、蓋シ射響ヲ起サンガ為メナリ、元来尖方塔ノ射響ハ頗ル高名ニシテ、其一砲ヲ発スレバ之ヲ射響スル十回ニシテ足ラズ、トシテ蓋シ其天井、壁、角等ノ強クシテ清ナルニ本ク、該皇帝殿ノ内部ノ光分ニ研磨シタル花崗石ノミヲ造ラル、其天井ハ九塊ノ花崗石ヲ

ヨツテ成ル、其石ノ重量ハ各二千磅（我二貫五百目）ナルベシ

此皇帝、皇后両殿ハ僅カニ三間乃至五間ノ間幅アルモノニシテ其屋根ト云フ可キ尖方塔ニ比スレバ眞ニ比較スベカラザルノ小室ナリ、此宏大ナル尖方塔ハ果シテ此等ノ二小室ヲ納ンガ為メニ建立セシモノカ其他尚ホ未ダ発見セザル者ノ在アルニ非ズトスベカラズ、今茲ニ一人ノ大膽ナモノアリテ試ニ一帯ノ縄ニ倚リ旅人ノ達リタル深淵ニ下リ又彼ノ井ニ下ルアラバ果シテ如何ナル地ニ達スル哉、蓋シ「ペロドタス」氏ノ嘗テ云ヘルカ「チエオプ」王ノ隠窩ニ達スルナランカ、精密ナル調査ハ実掌間ニ欠クベカラザルノフナリ、

以上該尖方塔内部充満シタヨリ是所ニ至ル三十行ハ單ニ「オナルド」氏ノ著ニ係ル造詣絶妙ナル昏ノ翻譯ナリ、下ニ行ノ如キハ或ハ其當ヲ得ザルフアルベシ、其所謂ニ小室ニ々々ニ付キテハ第二章

ノ未ニ解カ出ブベシト虽モ深淵ノ事ニ付ハ是辯ヲ費サズ（カラザルナリ、余輩嘗テ聞アリ（原書名ハ失念ス）埃及国王一ヒガ死体ヲ深ク地中ニ埋シテヲ謹リ深ク地ヲ鑿リ石室ヲ作シト欲シテヲ得ヒ地上ノ埋地ヲ以テ足レリト為シタリト、如シ輩ニシテ余輩ノ聞ク所ロニシテ大過勿ラシメバ、仮令深淵ニ下ルモ又深井ニ下ルモ到底土塊若シクハ石塊ノ崩壊ヲ覩ルニ外ナラザルヲ信ズ

余輩嘗テ英国人ノ著ニ係ル遠郷事情ナル者ヲ誦シシニ其書曰ク旅人ノ夫方塔ノ内部ニ入ラント欲スルモノハ先ヅ案内者ヲ傭フ、其者一ノ覆道ニ入ルニ当リテ旅人ハ親一帯ヲ腰ニ之ヲ帯ビ案内者ヲシテ其一端ヲ握ラシメ以テ危難ニ備フト、又曰ク或ル旅人嘗テ此ノ内部ニ入リ進ンデ皇帝殿ニ至リ（旅人トハ最初入洞シタルモノヲ云フカ）一ノ石櫃ヲ発見シタリ旅人ハ其一大発見ヲ為シタルヲ歓ビ欣然トシテ之ニ望ミシニ豈ニ計カン其石櫃ニ蓋ナカリシトハ、而シテ其中ヲ関シスルニ実ニ考古ノ考證トモ成ス可キモノ嘗テ無ク其人ヲシテ実ニ痛歎ニ堪ヘシメザリシ蓋シ其石櫃ハ帝王ガ其矢厳ト其財宝ヲ隠匿シ者ナルカ盗賊其厳肅ナル室内ヲ侵シ早クモニ之ヲ盗ミ去リシナルベシト

第六章　夫方塔ノ組成

本章ハ章ニ日耳曼博士リチャルド、レプシアス氏ノ考案ニ拠リテ編スルモノナリ、柳此「レプシアス」氏ハ日耳曼国ノ大博士ニシテ西歴一千八百四十二年ヨリ国学士院ノ上告ニ拠リ嘗時ノ皇帝「フレデレック、ウイルリヤム」ガ西世ノ許ヲ受ケ埃及及ビ「エチオピヤ」ノ古蹟ヲ探ラシガ為メ本国ヲ離シ仏国ニ入リ、英国ヲ経、倫敦ニ於テ二名ノ日志ヲ伴ヒ本国名アル大工、石工等ト共ニ南ノ方亜非利加州ニ航シ諸所ノ古墳ヲ探キ其他力ノ及ブ所ロ百方尽力シテ数多ノ考證トナル可キモノヲ本

国ニ持帰リシ人物ナリ、式ハ遠征中数回書ヲ本国ニ送シタリ余
輩其昏狀ノ英譯ヲ得タレバ其摘譯ヲ陳センス蓋シ造營學及ビ
探古學上其稗益カナラザルヲ知ル、尚ホ日式カ歸般ノ後ニ於テ
一日耳曼學士院ハ決シテ明式ノ持歸リタル古物ノ審査及ビ其鑒
定報告ヲ聽タラガリシヲ信ズト雖モ今輩ハ未ダ其英譯ヲ得ザル
ヲ最大ナル遺憾ト考ヘ、左ニ述ブル者ハ日式ガ西歴一千八百四十三
年三月ヲ以テ本国ニ送リタル第七号ノ昏狀ノ摘譯ナリ

野生一行去ル天長節當日ヲ以テ初メテ当国最大夫方
塔登塔仕リ遠ク北方ヲ眺メ我天皇陛下ノ萬歳ヲ祝
シ奉リ併シテ本国人民ノ幸福ヲ祈リ終リテ本塔ハ勿論
近傍ノ散石其他ノ夫方塔等親ク實驗仕リ野生儀年来ノ
志願ニ候ヘバ塔ノ組成相調ベ試ミ候處最初ノ中ハ中々難

事ニ相覺ヘ候得共終ニ塔上一ヶ所破損ノ面積有之ヲ見
出シ夫レヨリ段々探索仕リ候而稍年来ノ志願ヲ相遂ゲ
申候、愚按撮リ候得者本塔ハ元ト僅カ四十尺許ノ高サナ
ル塔ヲ相建テ漸々トヽ各邊ニ積石致シ遂ニ有様ナ大塔ヲ
ハ相成リ申候様相見ヘ申候、此漸々成長致シ候事ヨリ
段々推考仕候得者各塔共殆テ代々ノ帝王ノ建立ニ相
響リ一帝即位ノ節直ニ一小塔ヲ相建テ後在位毎一年
其世方ニ一覆瓮積石致シ、萬一建立中崩ミ候節ハ直
ニ工業相止ノ唯タ其外飾ノミ相附ケ候者ト相見ヘ申候、尤
モ中途ニテ工事奏止致シ候様子相残居候モ有之候、右申
上候次第ニ付此外萬端ノ事物日ノ深ニ存在致シ居候得ガ
当国帝王在位年間等ハ丁度木目ノ数ヲ以テ樹木ノ

年代ヲ相尋ネ候ト同様分明致シ候儀ト相考ヘ申候
云々尚ホ當時相墓ノ申候古物等種々有之幾分カ学術
上ニ裨益有之候者ト相愚察仕リ候間追テ歸朝ノ節
一覧ニ相備ヘ可申候云々恐惶謹言

亜米利加大川埃及国「ギゼー」美方培基
歐羅巴大川日耳曼帝国学士院　リヲチュヤルド　レプシアス

御中

右「レプシアス」氏説ノ如ソナレバ「ギナルド」氏ノ室云々ノ疑惑ハ以テ疑惑ト
為スニ足ラザルモノカ、

枝伐ノ事（山林新説摘抄）

大屋権平述

総テ本幹ヨリ獲ル諸工業材ハ其枝ヨリ獲ル薪ニ較レバ
見價ノ貴キハ論ヲ待タズ故ニ勉メテ本幹ヲ直長ニシ其
形ヲ良好ニシ工業師ノ望ム所ニ飽カシムルヲ要ス元来一
本生ノ樹ニ大枝ヲ生ズレバ本幹必ズ短縮スルモノナリ、斯ル
時ハ大枝ヲ折断シテ本幹ヲ直長ニ至ラシムベシ、或ハ大枝ヲ
助ケ短縮シタル本幹ヲ伐リ大枝ヲ本幹トナスモ可ナリ「若シ
捨テヽ養ハザレバ枝幹横斜放恣材用ヲ為サヾルニ至ル」
柳モ樹幹ヲ直長ナラシムルハ下枝ヲ伐リ下枝ノ長ズルヲ防キ幹
ノ曲シルヲ直ニスルニ在リ、然ルニ仮令ヘ悪キ枝ト雖モ之ヲ折
断ヲ行ヘバ本幹ノ長養ヲ妨ルヿアリ殊ニ時ニハ葉ヲ減シテ
枝ノ勢ヲ損スベシ又タ安リニ枝ヲ折断セバ伐口ヨリ腐朽

キ或ハ栃、樗ヲ生ズルノ恐レアリ、又壯木ノ数枝ヲ伐リテ木血
ヲ本幹ニ達セザラシメ其成長ヲ妨グルヿアリ。然レ氏嫩木ノ枝
ノ数ト其大小ハ本幹ノ長箱ニ拘ハルモノナレバ須ク注意ス
ベシ。渾テ幹ノ長養ハ枝ノ媒ト葉ノ呼吸トニ由テ生ズルモノナリ
又木血ヲ養生スルモ枝ノ媒ト葉ノ呼吸ニ由ルモノナレバ葉
附ノ枝ヲ妄リニ伐斷シテ本幹ノ長養大ヲ望ムハ猫ト畜
類ヲ牧スルニ餌食ヲ減ジテ肥大ヲ望ムカ如シ。故ニ伐斷
法ハ樹木ノ高大嫩大者ニ行フベシ。蓋シ嫩木ハ柔須ニシテ
幹ノ曲リモ揉ノ易クシテ仮令ト枝ヲ伐ルトモ長養今多キヲ
以テ之ヲ伐リタル後ニ痕跡ヲ留メザレバナリ。之ニ反シ壯木
ノ大枝ヲ斷レバ其痕跡瞳脹シテ軈樗ヲ生ズルカ又ハ奇ヲ
導クヿアリ、若シ然ラザルモ痕跡遂ニ清々ズルナリ。

以上陳述シタル如ク大枝ヲ伐斷スルハ實ニ好コシカラヌヿナレ氏
萬一モヲ得ズ之ヲ伐斷スルトキハ其跡ヘコルタール（元炭ヨリ取リタル流動ヿ液）ヲ
一二度塗ルベシ、コルタールノ性タル能ク樹木ノ腟脹ヲ防ギ木肉
ノ腐ヲ止ムルノ賀アレバナリ。
凡ソ枝ヲ斷伐スルノ法ハ木膚ニ近ケテ清滑ニ伐ルヲ好トス
蓋シ其跡ヘ外皮ヲ掩フニ障碍ナキヲ要スレバナリ、昔シハ
木膚ヲ遠ケテ伐リ腐ヲ木心ニ遠ケタル為メナリト説キタレ
氏方今實地経驗ニテ昔説ノ非ナルヲ知ル。昔説ノ如キハ却
テ腐ヲ木心ニ導クノ媒ヲ為スモノナリ。
木液アル樹ノ類ノ枝ヲ伐ルハ不可ナリ。然レ氏是等ノ樹ハ血
長ノ性アレバ敢テ枝ヲ伐ラザルモ血長ヲ防グル事ナシ。又双
頭ノ樹ハ一本ヲ存シ一本ヲ伐ルベシ。凡折シノ後及ビモヲ

得ズシテ伐ルニ非レバ下枝ハ自然ニ枯ルヽヲ待ツテ善シトス。木皮アル樹ノ枝ヲ伐ルトキハ木膚ニ傷ヲ伐ルベシ、然ラザレバ枝節ヲ残シテ材木ノ價格ヲ減ズレバナリ」

枝伐ノ法ハ大山林ニ用ユベキ法ニ非スシテ自園私園ニ用ユル法ナリ、大凡植ヱヨリ三曲年目ニ下枝ヲ伐リ樹頭ヲ残シテ葉ハ畜類ヲ飼フニ供シ、小枝ハ乗子ヲ薪ニ供ズ、椿、柾椿、榛ノ類ハ皆ナ此法ヲ用ユベシ、昔シ佛国ノ中部ト西部ニ於テ枝伐法盛ニ行ハレ啻ニ園圃ノ樹ノミナラズ、森林ノ樹ニ波及シテ良木殆ンド尽ントスルニ至リ、都府ノ材木貯蓄場ニ大良材全ク尽キタルヿアリ蓋シ枝伐法ヲ濫用シタルノ最モ甚シキ者ナリ。元来妄リニ其枝ヲ伐リタル木幹ハ價格ヲ失フ百ナリ如何トナレバ枝ヲ伐リタル跡ハ皮ヲ覆フタル節脹アリテ挽ヲ工業材ト為ス能ハズ又割テ樽欄トナス能ハス、或ハ其節ヨリ数バシバ腐ヲ導キ木心ヲ朽チテ材用ナラズ只薪炭トナスヲ得ルノミ、前ノ如クナル故ニ漫リニ枝ヲ伐ルベカラズ、然リト雖モ此法ハ実ニ良好ヲ得シトスルノ鄭重ノヿナレバ森林ニ用ユ可クシテ其柾椿ヲ防グノ法ハ決シテ欠クベカラザルナリ、若シ此豫防法ノ行届カザルヲ知ラバ寧ロ枝伐ヲ行フベカラズ。

又樹枝ヲ簇生セシメンガ為メニ本幹ヲ伐ルヿアリ是レ実ニ忍ムベキヿナリ、本幹ヲ伐タル樹ヲ蚓蚓トシテ蓋シ枝口ニ生ジタル柾椿ノ形蚓蚓ニ彷彿タレバナリ。又大柾椿ハ数回伐テ其痕ノ凝集シタルモノナレバ腐ヲ導テ木心ヲ朽チシム、殊ニ是木心ハ栗色ノ粉末トナリテ散シ生皮ハ外ヨリ掩蔽ス、此ノ如キ樹木ト雖モ久シク生活スルト雖モ決シテ樹木ノ

用ヲ為サヾルナリ。故ニ曰ク枝ヲ漫伐スルハ本幹ヲ伐ルヨリ寧ロ可ナリ。

大山林ニ於テハ枝伐ノ法ヲ施スヿ頗ル難事ナリ故ニ良木ヲ得ント欲セバ先ヅ雑木ヲ除クベシ、而シテ之ヲ行フニハ株伐法ヲ用ユベシ

明治十三年一月十八日演説草稿

弧形窓ノ説

大屋権平述

余輩カ所謂弧形窓ナルモノハ英語ニ之ヲ「アルチユ」トヱフモノニシテ其譯字ノ如キハ未輩ガ未タ嘗テ之ヲ聞カザル所ロナリ 抑モ余輩ノ是レニ窓字ヲ附スルハ蓋シ故アリ、天来「アルチユ」ナルモノハ之ヲ門ニ用ヒ或ハ之ヲ橋梁ニ用ユルヿアルモ其最モ卓ナルモノハ窓ナリト信スレバナリ、

弧形窓トハ造營術ノ一種ノ妙工ニシテ石若シクハ煉瓦ヲ相互ヒ壓力ヲ以テ維持スルヲ形ノ工作ヲニフ、其功用ハ唯ニ一個ノ天觀タルニ止マラズ、日最大ノ重量ヲ負載スルヿヲ得ルモノナリ。

元来弧形窓ノ形ハ二ニシテ足ラズ其主ナルモノ大凡左ノ如シ

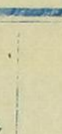
第一 半球形 Semi-Circular Arch.

第一圖

第二圖 欠形 Segmental Arch

第三圖

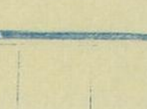
第三圖 楕圓形 Elliptic Arch



第三圖

右ノ三形ハ大古人ノ用ヒシ所ロナリ其後右三形ニ脚ヲ加ヘタノ諸形ヲ発明ス

第四 仆馬形 Stilted Arch



第四圖 仆馬形

第五 馬鞋形 Horse-Shoe Arch

第五圖 馬鞋形

其時代ニ於テハ右ノ諸形ニナルト雖モ其觀ノ美ナルト其種類ノ多キハ尖弧形ニ(Pointed Arch)ナリ其主ナモノ大凡左ノ如シ

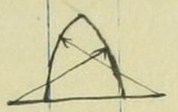
第六 等辺弧形 Equilateral Arch

第七 高尖弧形 Lancet ;

第八 低尖弧形 Drop ;

第六圖 等辺弧形

第七圖 高尖弧形



第八圖 低尖弧形

其他種々ノ変形アレ氏茲ニ録セズ

右等種々弧形変形ノ発明ハ実ニ造營学ニ大進歩ヲ与ヘタルモノナリ

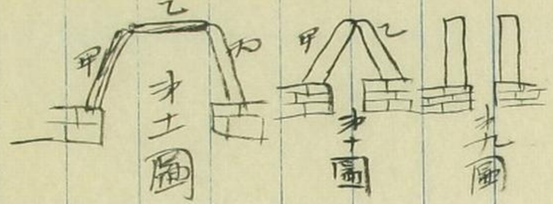
主レバ世界ノ人民ガ如何ナレテ之ヲ建ツルノ思付ヲ発セシヲ探究スルモ敢テ贅物トナスベカラザルナリ、

全体ハ古昔ニ穴ノミヲ生殖セシ人民ハ暖国ニ住セシ者ノ如シ、而シテ暖国ニ在リテハ必要ナルモノハ日陰ナリ、其初ノ人民ノ僅ヲナル時ニ即チ天然ノ木蔭ニ聊カノ增加ヲ成シタルモノニテ事足ルナルベシ、即チ木枝ニ材ヲ横タヘ木葉若クハ緑草ヲ以テ之ヲ葺キタル如キモノナリ、然レ氏人民ノ蕃殖スルニ従フテ農業ニ従フテ

要用トナルナリ蓋シ天然ノ果物、樹根等而モシテハ多数ノ人民ノ用ニ供スルニ足ラザレバナリ、然ルニハ森林ノ伐キハ主トシテ耕作地トナリテ人民ハ農業ノ為メテ平野ニ放逐セラレザルヲ得ズ、於是乎各自其住所ヲ新営スルヲ要ス、故ニ小屋掛如キモノ、自然群ヲ成スベシ、社会ナルモノ、始メテ創立ス、社会ノ栄起ト倶ニ其土地ノ需生ジテ之ヲ保護スルノ念生ズ、其念生ジテ農事稍安定ナリ、其安定アレバ年度輪廻ノ要ナシ、於是乎如何ナル平穏ノ穿屋ヲ作ルノ希望生ズ、之要用既メテ生ズ、モ家屋ヲ作レバ之ヲ飾ルノ心生シ遂ニ木室ニ代ルニ石室ヲ以テセントスル望ミ、又其石室ヲ飾装スルノ心生ズ、トハ天然自然ノ理ニテ人生普通ノ情ナリ、

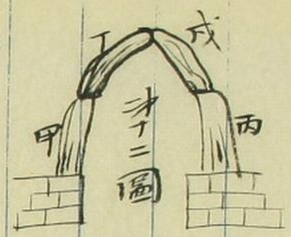
今茲ニ或ル一家ノ入口ニ二本ノ柱アリトシ右人民ニモ装飾ノ心生ゼリトセバ彼等ハ如何ナル趣案ヲ下ス哉ヲ探究セン、

彼等曰ク、「成等ハモニ第九圖ノ如ク二本ノ柱直立セシムルヲ得タリ、然レバ今後ハ之ヲ斜方ニ葉ノ方凡味アルベシ即チ第十圖、如クスベシト」、於是物好キノ人物ハ事出テ種々ノ工風ヲ懲シ第十一圖ノ如キモノヲ第十二ノ発明スルニ及ベシ、是方蓋シ頗ル美ナル者ナレバ未タ未来人生ハ好新ノ心情アルモノナレバ高ホモ之レニ美ヲ加ヘントスルナルベシ、于時一個ノ半数学者ヲシテ来リテ云ハシム「第十圖ニ於テハ甲乙ノ二石相互ノ壓力ヲ以テ相維持スル而シテ甲乙ノ二石相互ノ壓力ニ抵リテ顛倒セ



第九圖　第十圖　第十一圖

ズ」ヒトツノ二石ニ在リテモ無ク「リト」又孟ニ一人ノ石工出来リテ曰ハン



第十二圖

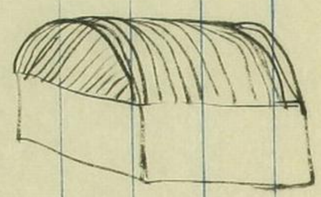
ニテ教ヘタル石先生ノ言極メテ能シ実ニ感服ニ堪ヘサルナリ拙者ニ於テモ先生ノ教ヲ實用セザルベシ今試ニ石ニ代ルニ丁成ノ二石ヲ用ヒントセバ蓋シ用ユル能ハザルヿ方マシ如何トナレバ丁成ノ二石ハ第十圖ノ理ニ隠ラテ相互ニ維持スレシ又甲丁ノ二石ニ於テモ第十一圖甲乙ノ二石ノ例ニ倣ヒテ維持スルヲ得ベシ又丙成ノ二石ニ於テモ同様ナリ然レバ甲丁成丙ノ四石ハ第十二圖ノ如ク積ミ上ブルヲ得ベシ」

拙是等弧形法則(Principle of Arch)今ノ成ル蓋シ第十二圖ノ四石相互ノ壓力ハ弧形法則ニ従ヒテ第十圖ノ如キハ楔形法則(Principle of Wedge)ニ従フ者ナルガ故ニ決シテ同一ノ理ヲ以テ推変スベキニ非ラサレバ其初メテ弧形窓

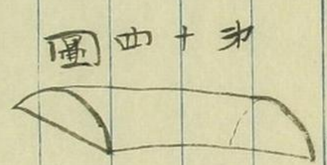
ヲ建築セシ時代ノ工作ハ丸太ノ如クナリシヲ信ズ、

右ノ弧形法則ハ建築術ニ於テ著シキ進歩ヲ現シタルモノナリ

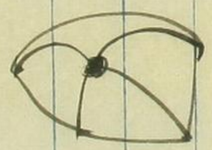
即チ第十三圖ノ如キハ平球形ノ模用ナリ其天井ハ第十四圖ノ



第十三圖



第十四圖



第十五圖

如シ之ヲ模用スレバ又第十五圖ノ如キ天井ヲ為スヘキ石室モ建築スルヲ得ルナリ

余輩ハ拙是大古発明者ノ名ヲ附シ其手段ヲ推考シテ之ヲ陳述シ終リタリトシテ其発明ハ蓋シ何人ニ歸スルヤ

ヲ攻究セントス

余輩ハ弧形窓ノ変四者ヲ攻究スル先ヅ真ノ弧形窓ト類似ナルモノ偽弧形窓トノ差別ヲ陳ブルヲ須ヒナリト思考ス、真ノ弧形窓トハ真ニ弧形法則ニ隨フテ建築セシモノ偽ノ弧形窓トハ只ダ石ヲ積ミ上ゲモノヲ弧形ニ整リ拔キタルモノヲ謂フ、カナニ第圖ノ如シ

未完

極小点ノ辨

大屋権平稿

柳キ数ナル者ハ世界萬事万物之レニ隨ハザルヲナキモノナリ。其数タルヤ二ヶ様ニ現出スルモノニテモ之ヲ翻覆ノ数、変遷ノ数トモ云フ。地球ノ運轉、時候、巡回等之ヲ翻覆ノ数ニ隨フモノトス、人間ノ生長、動物、変遷等之ヲ変遷ノ数ニ隨フモノトス

数ノ万事万物ニ直接ノ関係ヲ与ヘタル如此、数ヲ知リ学ブヲ要用ナラズヤ、其数ヲ知ル学ヲ数学或ハ理学トモ云フ、即チ天文、物理、生物、兵術、其他一般ノ学ヲモ云フ、

其許多ノ学課中数学（マセマチクス、伝リ流行スル譯ニ拠ル）ナルモノハ事ヲ右事ノ事物ヲ研究スルニ在リテ最中或何学ナルモノハ尤モ能フ其理合ヲ斜スモノトス

此或何学ノ尺寸トナスモノハ点、線、面、体ナリ、余輩ノ主トシテ説カント

スル所ロノモノハ幾何学ノ点ハ極小点ニシテ実体ノ最小点ハ極小点ニ
シテズ而シテ幾何学ノ線、面体ハ各極小点ノ移轉ヲ以テ画畫セラ
ルヽトエフ[illegible]リ

茲ニ一個ノ実物ナリトセバ其実体ヲ組成スル所ロノ最小分子ハ如何
ナルモノゾヤ、其最小点分子ハ実体ノ百分一カ千分一カ四ク否ナ一箇
ノ分数或ハ小数ヲ以テ書キ得ベキ数ハ幾千箇ニモ分除セラレ得ル
モノナリ然ラバ最小点ハ極大積ヲ以テ実体ノ分子ヲ除スルモノナリ
ト成リ[illegible]ヲ得ガルナリ即チ $\frac{1}{10^{n}}$ 代数ノ方式ニ拠リテ其最
小点ハ零積又ハ極小積ト知レ、然ラバ $\frac{1}{10^{n}}\times\frac{1}{10^{n}}$ ナルガ故ニ実
体モ亦レ零積ナルガ如シ

右ノ如キノ失錯ヲ生ズルハ畢ヘニ最小点ノ直段ヲ誤マルモノニシテ実
体ノ極小点ハ「アトム」ナルニ最小点ハツモリキテ「ビ」ナリ如何トナレバ「アトム」ナル

モノハ世界ニ独立スルヿ決シテ出来ザルモノナリ故ニ実際ハ「アトム」
ヲ極小点又ハ零積トエフ

幾何学ニ於テハ其最小点ハ決シテ相成ラザルヿヲ著シキ様ノヿアレバ幾何学線、面体ハ
総テ実体ナラザルハナリ法ニテ想像カレタル物体ニ過ギズ、故ニ曰ク幾
何学ノ点、線、面体ハ無量ノ音ニテ只ダニ其限リヲ示スモノナリ、
即チ線ハ其外ハ極小点ノ移轉ニ在リトエフ説ノ前ニ全畢ハ
線ハ決シテ点ヲ集併シテ成立ツモノニ非ラザルヲ説カントテ
試ロニ二点ヲ併置スル時ハ其二点ノ間ニ空地ヲ生ズ又空地ナキヲ要シ
二ツ相接セシメバ其接点ヨリ即チ極小点ナルカ故ニ此二点ハ是非
トモ「コインガイド」セザルヲ得ザルナリ、
故ニ全畢ハ只ダ一ノ極小点ノ移轉ヲ写シ

タルモノニシテ法ニテ量ナキモノナレハ方角面ノ大小不德ベク表ニ得ガ
ルヿハ法ニテナキ者ナリト
直線曲線等ハ点ノ一点ノ移轉ノ称号ナリ圓ノ周囲モ亦タ一点
ノ一筋ノ行跡ナリ、或ハ論者圓ノ多辺形ノ変化ナルガ故ニ其周囲
ハ必ナラモ二点ヲ以テ成立ツ所ニ直線ヲ以テ囲ミタル者ナリト
其言尤モ當レリト雖モ未ダ尽カズ所ロアリ即チ前ニ説クガ
如ク二点ノ相接スルトハ即チ二点ノ相重ヘ（コインカイド）ニ同ジキガ故
ニ決能リ一方ニ向テ走リタル一点ノ行跡ニテ其曲リ方モ各点ニ於テ同
様ナルモノ為ニ飛ブ始ダナシトス、

マル

濃世策二

鄙生ハ客月ニ於テ百姓工商業ノ萎微ヲ論シ且ツ政府カ人民ニ干渉
スル過度ニ囲ナル害ト及ヒ華士族カ朝廷恩恤賜金ヲ浪費シ工商ノ
人ヲ妨壁スルヿ甚トヲリ辯ヲ陳述シタリキ既ニ如是ハ鄙生ノ忌憚
スル所ナリ過日ニ新言シタル今ノ如ク尚ホ二年余年ノ鳥兎ヲ過ヌ
ル迄ハ日本ノ工高業ハ興起スル能ハサルナリ矣ノ語モ空ナシ為ニ
水枝、歎ト云フガルハ諸貿ノ認可スル所ナラン物ニ諸貿モ同シク日本
ノ憂国ナリ徒ラニ座上空理ニ走ルヲ止メサシテ意ヲ注テ内外実
情ヲ察セヨ今ノ日ニ於ケル外ニ鴎鳥ノ態ヲ観ニ鄙陋ノ窺フ魯英
恐ルヽ所キアリ内ニ上意ヲ貫徹セスシテ日ニ怪々怨ノ頑鬼ハ横ニ
民政国ニルアリ賊出ハ月ニ其為ノ横ニ豪富ハ年ニ数百ノ破産スルヲ
知ラス内外公債ハ川河ノ奏ル如ク瞬ニ加ヘ利ニ増シ殆ト過百世ノ仇国

改革為ト運ノ局ニ当レ政府法制復ノ雲雨ト比トシテ朝憲ヲ暴
シ欺フル支那始皇ノ朝ト況ン其ニスルカ如シ夫レ始皇国ノ危急存
亡ハ今日ノ構キ他日ニ見ルヲ可キ無キナリ苟モ日本国民タル我輩ニシテ少
ミク通理ヲ学ヒ得ル以上ハ何為レソ空ナシク奉迎ノ見島斧鉞感ヲ
以テ汲々ト唯理論ヲ之レ勉ムヲ可ケン哉焉乎
如是説来タラハ或ヒハ曰ハン頃者ノ地方長官会議ヲ見ヨ其議長ハ
富今政府ノ脳髄タル伊藤氏ニ非ラスヤ其内閣委員ハ孔島モ落ト
スヲ可ク海水モ尽クスヲ可キ鋭利ノ舌力ヲ備ヘタル松田氏ニ非ラスヤ其ノ
書記官ハ眼ニ触レモノヲ章句ニ綴リ百年ニ入ルモノヲ句ニ掬ム卓越博識ナル
福地氏ニ非ラスヤ而シテ其議員諸氏ハ数年ヲ地方ニ過コシテ尺地一
民ト雖モ実若セサルナキ下情ヲ通知シタル老練知事令書記官
ニ非ラスヤ其発議スル所ハ以テ一国ヲ挙動スルヲ其事言フ所ハ以

帝国ヲ屈スルヲ可ク其議定ル所ハ以テ我皇ノ法トナルヲ可シ斯ル屈指ノ
議員ニシテ斯ル無限ノ権力ヲ有シ上ハ聖上ノ親臨ヲ辱フシ下ハ萬民ノ
仰望ヲ羈ク而シテ日子三旬ヲ費ヤシテ其ノ成果スル所ハ到底諸氏ノ口
舌ヲ磨滅スルニ外ナラス之レヲ実施使ムルヲ得セサルナリ彼等諸氏ノ
向ル所ハ其ノ黄吻布衣ノ我皇設ケ給ヘル所ノ霞屋ノ水支決河ノ土壌ヲ免カレ
皆ナ社稷ヲ鄉嚮スルヲ得レヤ所謂霞屋ノ水支決河ノ土壌ヲ免カレ
ル而已矣ト之ノ言ヲ或ヒハ然ラ然ラハ則チ諸員ハ其皇国ノ破壊ヲ
救フヲ可ラサル見ヲ徒ラニ傍観座視其ノ滅ルヲ待タントスルヤ平言ヲ
ミシノ古ヤ以タリト雖モ言ハスヤ期心奮発神明之ヲ有ス滅
亡而已ト勉ムヲ諸員遅ムヲ諸員諸賢ニ如ス人ノ志ニ従ヒ尚躊
躇遅疑ノ気力ニ失ハ神武不承三千年ノ皇国モ将ニ亡ブルニ庶幾矣
乎或ヒヲ諸員懐ヲ諸員諸員ニシテ浮々泥々空理ニ之レ沈ケラハ

數千年ヲ經テ來レル者多ク高等師ノ胸懷ヲ粉塵シタル西洋ノ實事
モ空ナシノ古若ノ腐儒等ト擇ブ所ナキニ至ラシム焉矣
鄙生嘗テ之レニ感アル南朱藩田ノ梅屋堤ノ樓ハ水ノ淵ニ臨ミ抽ノ能ハズ
主子ノ渠布御殿山ノ清風ヲ手ノ撫屋ノ海ノ四ラスヲ毎歲刊蛙管
見旦ツ日夜汲々ニ藩ヲ策ノ之レ擇リ滋々其幣害ノ固ラ來ル所ノ之レ
尋子茲ニ近時ニ至テ初メテ想フ所有リ客月既ニ藩ヲ策ノ一篇ノ
演ヘ今タ又其ニノ說ノ至タレリ矣
者元ノ下每ニ至ル卒ニ之演每ニ主臣焉ハ封建ノ弊ノ多ク德川世未
サニ至ル近主任者ノ腔髓ニ定着シタル君主專政ノ法語ニテ有リキ
蓋シ之ノ時期中ニ有リテハ生殺與奪ノ權ハ一人主ノ手掌ニ有リ
人民ハ手足ノ束縛サレ四目ノ壓蓋サルテ命運ノ其人主ニ仰ク適
サリキ星霜ノ運遷ハ國家帝ニシテ斯ル時ニ至ル京東天ノ紅見

ルキナレトセスニ十年前西英ノ艦隊中次來
長夜忽チニ曙シ浸々トシテ旭日ノ驅降シ奇麗ノ街彼岸ニ凝佇
セレモノハ大河決スルガ如ク晝夜ノ厭ハズ国内ニ移來シ霸獨立気
ノ西天ニ充滿シタルモノハ潮流ノ如ク比トシノ歲月ノ間ハ民人ノ胸裏ニ透
入セシモノ當此時平德川三百年ノ幕政ノ歷倒シタル勤王義士
ノ紳士輩ニ其国家ノ擇任スルニ富ム必竟斯ル大勢ノ防セノ可カラ
ノ知ルヤ忽チ其方向ノ一轉シ新タニ法制ノ編組スルノ時ニ際シ初リニ
西洋ノ文化ノ誘導スルノ勢ノ先ツ其外面ノ裝飾セニカタノ海陸ニ電線
ニ蒸船ノ器械藝術ノ國民ニ手シ國民ノ一旦之レニ接觸シ所
セシノ知ラズ知ラズ自由ノ義席ノ伸張セシムル、策法ノ設ケタリ
然ルニ當時ノ人民タルハ完タク德川幕府時ノ人民タルヲ以テ手ノ書ク
元龜天正年時ノ大膳亮ニ壓抑サレタル文物衰運ノ改復スル能ハズ其

太平ニ慣レタル士人ハ唯武ニ勤メ民人ハ各諸侯ノ教命ヲ之レ従ヒ情上ヘ
ニ奏稟ヲ潤色スルニ没タリ之レカ為メニ教育ノ制ハ殆ト無キニ比シ
タリ実ニ嗟歎ニ堪ヘサリキ加之ナラス廟堂諸侯ノ士君子ト雖モ海ニ
生シテ年時ニ及シ日本ヲ知テ他ノ諸国ニ知ラサル迄ニ墨民ノ壓抑ニ従順
タルノ時トシ数リニ金賊ヲ都府ニ襲フ日ニ其奇迹ヲ掠ル酒色淫佚ニ
沈ケル外他事ナシ亦タ救フ能ハサルナリ而シテ斯クノ如キ淫佚輕薄ノ輩
ヲシテ一朝欧米輕使等者ハ西般ヲ見セシメ加フルニ政府之レカ先
導トナリ唯ニ欧米ノ霊操ヲ加用スルヤ唯レカ国家ノ前途
ニ顧慮セヤ士人ハ廟堂ノ要職ヲ握トシ民人ハ士人ヲ例トシ教ヲ歌
ヘヨノ勢ヲ以テ法ヲ国内ノ裏庫ニ空虚トシ呈ハルニ紙幣ヲ補
ヒ流荒シテ止ム所ヲ知ラス字ヒニ曰ク不開化ノ朝ニ之レ
ヲ歸ス嘲シテ強ヒテ其猶ヲ喰ハシメタリ於ヲ今者迄ト宜着

シテ誰トサル輕薄淫佚ノ不品行ハ茲ニ其屋敷ニ妻ヲ産ムヲ常
トナシ花街ニ戯ムルハ之レ元字ノ朝鮮島帝国ノ主世モ亦タ比ス
可カラサルノ如斯クシテ歳月ヲ徑過シ寔ニ二年来先ヲ醒ル
ハ若干ノ生ヲ為リ而ノ其醒ルハ新ニ酔ノ其沈酔ヲ覚ヒ到チ
名称ノ新紙幣ヲ発シ印刷ニ大呼シテ曰ク武ヒハ工業ノ盛ンニセサル可カラサルヲ歎シ武ヒハ商業ノ廣大ナラサル可カラサルヲ
慨シ武ヒハ金貨ノ流出防セサル可カラサルヲ又ト説キ武ヒハ内ニ伸張
セサル可カラスト言ヒ武ヒハ教育法ヲカラサル可カラスト呼ヒ曰ク何ヲ何
時ニ雲々愛国漢ノ荷外ノ者四ノ性ノ如ク心裏ノ壺ノ如クニシテ
海義ヲ忘レ代其説ノ所ニ慨ヲ次席ヲ失ヒタルヲ以テ隔靴搔痒ノ感ヲ
免カレス到底感應スル所ヲ見サルナリ嗚呼又憐日新ノ福地新
知ノ福田昭ノ中村朝鄭ノ成島葉筆ノ先ニシ思ヲ移ニシテ

論スル所ヲ願山陽ノ高時ニ有ラシメハ腐儒空論漢唐ノ評ヲ載ク過キサル可シ試ニ想ヘ孝峰ノ紡績ヲシタルモノ有リカラハ酌メテ之レヲ左右ニ引キ大呼シテ勢ヒテ曰フ何ソ夫レ正理スルノ難キ或ト云フ者有ラハ者ハ之ヲメテ其冒鈍ヲ笑嘲セン社會ノ先導者ンスヲ問カラ攘仕スル新空地者輩ニメ其ノ迂遠ナル如斯抱腹ニ堪ヘサルナリ之伴ノ紡績スルモノハ其ノ緒ヲ探テ術ヲ之レヲ正理スルニ有リ社會齊整ニモ亦其ノ天間ニ沂テ漸次之レヲ回復セサル前ケニ我方今ノ弊膏ラシメ君ト我輩ノ流キシ所ノ如クナラシメハ何ヤ之レヲ矯正スル策ハ如何ナルトス教育ヲ盛ンニスルニ有ル乎民ヲ窮スルヲ如何セン富國ノ事ハ工高業ヲ興起セシムルニ有リ先ツ工高業ヲ盛ニスルヲ急務トスルト雖モ職業ニ就キテハ統スルニハ勇ナルヲ如何カセン富國ニ有リト雖モ日本國ハ富國ノ業ヲ

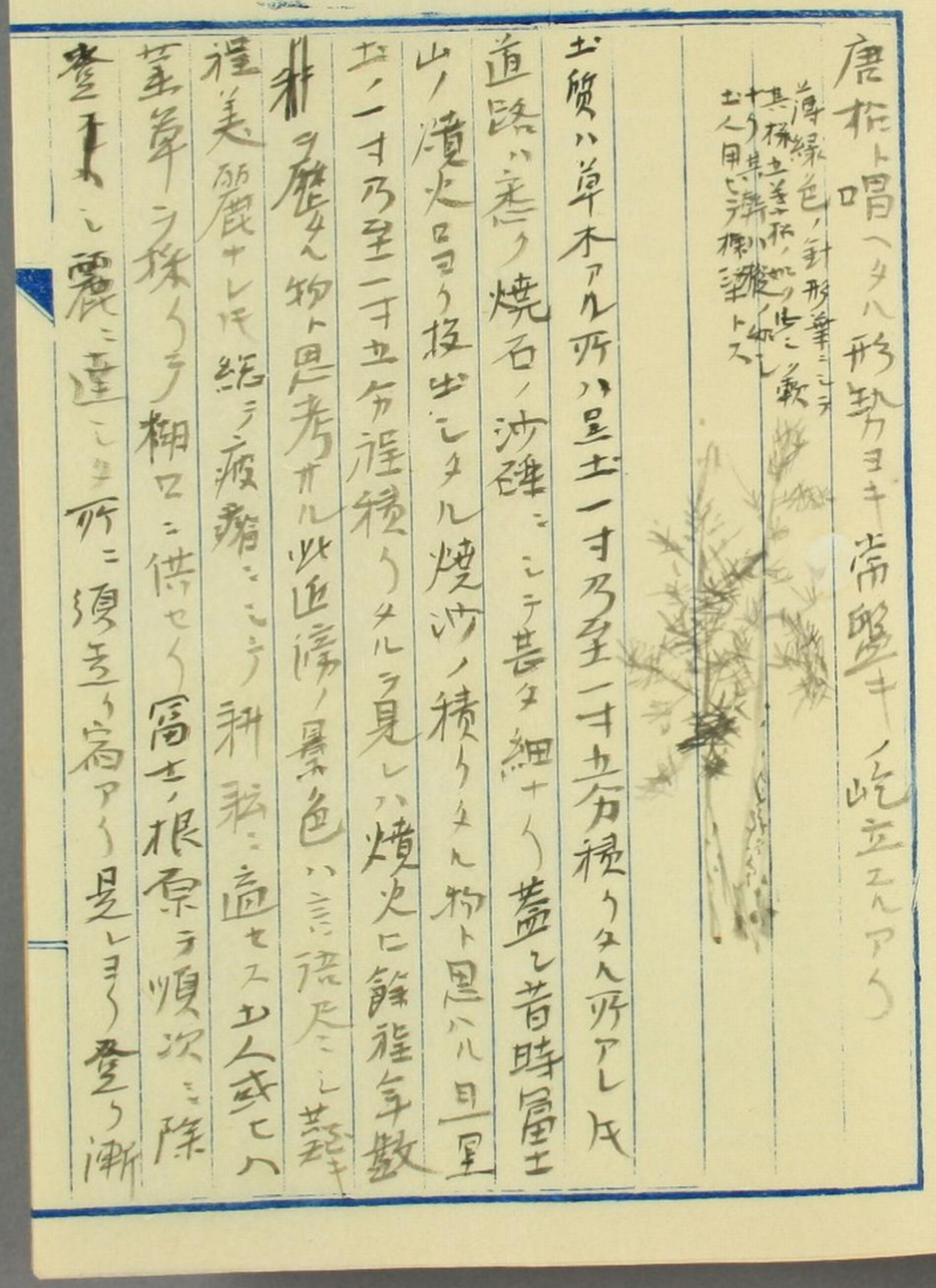
シトセス而シテ為ニ之ヲ言ヘハ如ノ公債証書ノ競求スルモノ過多ニシテ為業ヲ興起スルモノ試ニ公債ノ供給スルモノ遂ニ々々ハ軍ノ何ノ基ヲスル所ヲ曰ク信德ノ如キニ無ル乎

明治十二年旅行有感続キ　　岡山孟六

理学上ニ関シタル有感

前會ニ政事上ニ関シタル有感事一ヶ條ヲ演ヘ終ヘタリ羽ニテ此他政事上ニ関シタル有感北トヘハ廃藩置県ノ成積道路橋梁製表造所或ハ勧業費等ニ用ヒタル不勧武本ノ利害内务政事家各駅沿等ノ如キ尚ホ數條有リト雖モ一々之レヲ演ヘ去セハ鄙生カ諸君ヨリ許可サハ可キ本年中ノ演ヘ去時間ヲ之レ而已ニテ消費セザル可ラズ且又何ヲモ慶要ニハ相違ナケレト年ヨリ冗長ナル故之レ等ハ後ノ幸期ニ譲リ理学上ニ関シタル有感事ヲニ段リ述ヘ中ニ可シ鄙生ノ北行ニ於テ我皇国ニ有名ナル不二沛嶽浅間ノ三大山ヲ過キリテ見撃シタリキ今其三

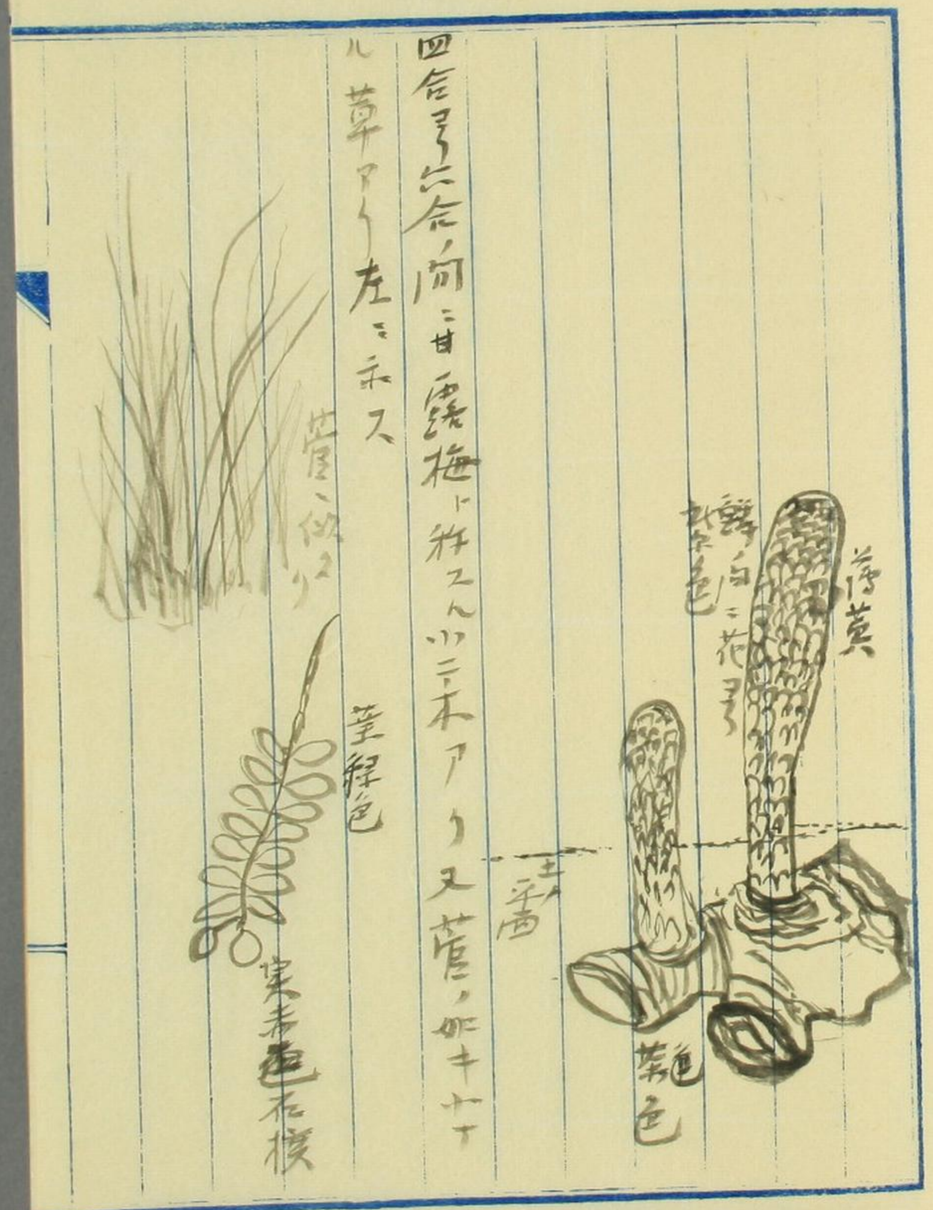
ト客歳ノ旅行ニ見聞シタル日光山等ヲ記シテ郡生ノ想
像ヲ引キ起コシタル日本火砲ノ一班ニ陳ズル為ニ富士御嶽浅間等ノ三山ノ異
同ニ就キ大畧ヲ諸君ニ陳ベ度キ事一年アリ蓋シ富士浅
間御嶽三山ハ其高サニ就キテハ差等アリト雖モ其地火ノ
ダメニ吹キ上ケラレタル火山ニシテ其岩石ノ性質ト言ヒ其草
木ノ性質ト云ヒ其横史ロノ形勢ト悉リ同一ナリ故ヲ以テ
今マ三山ノ草木ニ注意スルキハ風向針ヲ撃ヘズト雖モ
略ニ其高低ヲ比較スル可キナリ郡生カ富士山ニ
昇ルニ際シ四方ノ眺目悉ク我カ生地ニ異ナリテ見聞ニ新
ラシキ故猟吏注意シテ其地質草木等ヲ検査シタリキ
扨テ富士ノ根原ハ茫々タル薄原ニシテ處々左ノ図ノ如キ



唐松ト唱ヘタハ形勢ヨキ常盤キノ屹立スルアリ
薄緑色ノ針形葉ニシテ其株立キ松ノ如シ故ニ歌人用ヒ濫ル標準トス

土質ハ草木アル所ハ黒土一寸乃至一寸五分積リタル所アレ氏
道路ハ悉ク焼石ノ沙礫ニシテ甚タ細ナリ蓋シ昔時富士
山ノ燈火ヨリ投出シタル煙灰ノ積リタル物ト思ハル且星
霜ノ一寸乃至二寸五分程積リタルヲ見レハ焼火ニ餘程年数
ヲ経タル物ト思考サル此辺ノ景色ハ言語尽シ難キ
程美麗ナレハ紙ニ画セスシテ成ル人成ヒハ
草葉ヲ採リテ糊口ニ供セリ富士ノ根原ヲ順次ニ除
登シ震ニ達シタル所ニ須臾リ宿アリ是レヨリ登リ漸

ク急ナル復走驛ヨリ凡二里程上ニ連ル者程ノ下木森
々ト鬱茂又蓋シ山頂ヨリ風雨寒暑等ノタメ細微ニ
破碎カシタメン汚土ノ流シ来タリテ此邊漸高ノ所
ニ流滞シ遂ニハ此肥土ヲ生シタメンナラン一合ニ至タシ
ハ草木從テ密レナリ「キバタ」木等ノ
シ又薄ニ類シタル草アリ二合三合四合ニ至リ代変ル
草ナシ然シ此草木密生ニ從テ少剛トナル舟ノ地上
二尺ノ次ニ立ヨリ高キモノヲ見又岩石ハ殘ラス焼石ニテ
下ヨリ上ニ至ルニ從テ其形大イナリ四合五合ノ間ニ至タ
シタ季候甚タ寒ク先ニ暑ケモ否ニ雪アリ草木ノ
間ニ間々ハ二ノ時又ハ葉萌アリ其形ハ蘇鐵ノ小ニ
ナル右ノ如ク左ニ図ヲ示ス


蕨
葉色
葉色
葉色

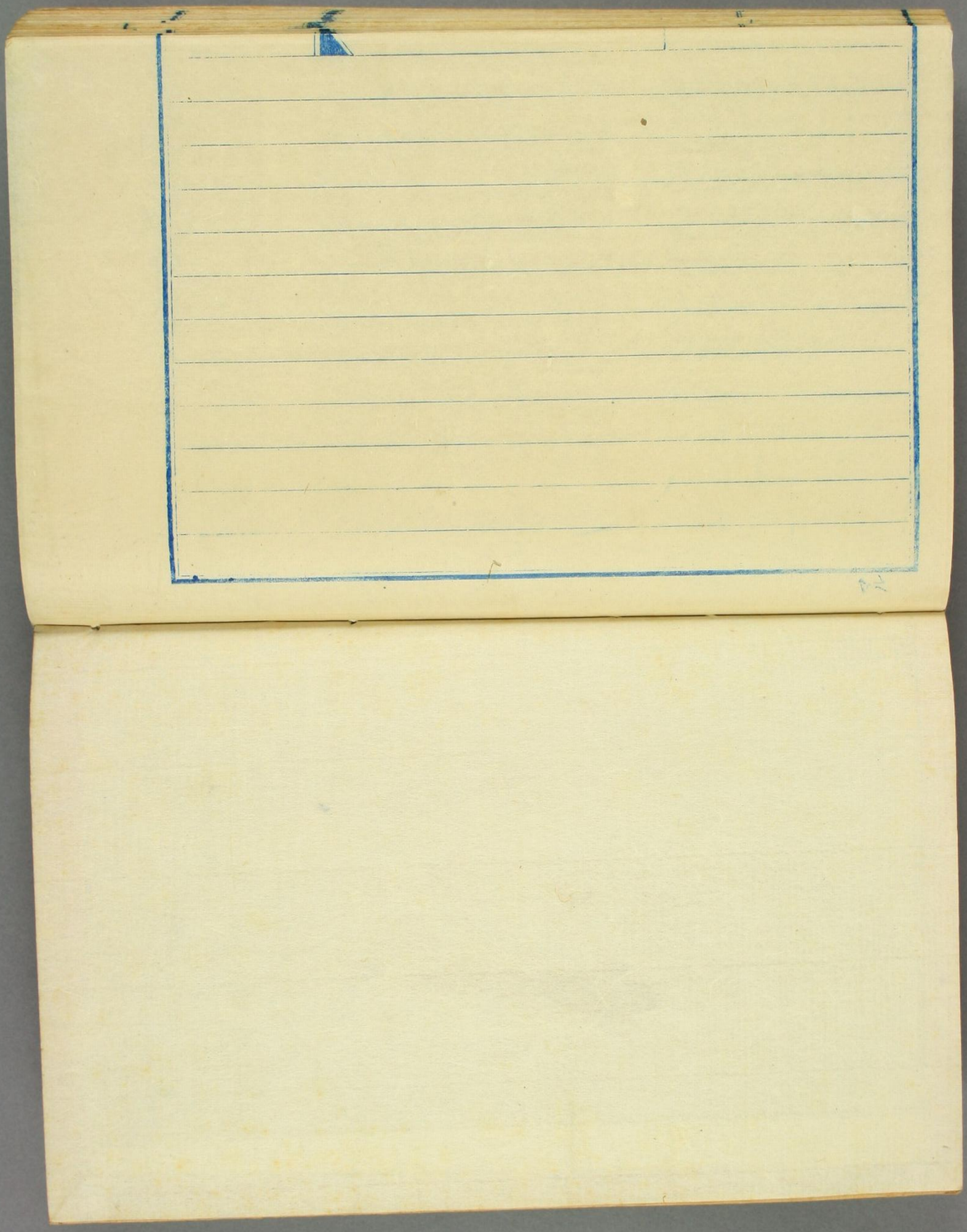
破新宗教論

本年坪清君ノ演説サレシ論題中宗教論ヲ次テ最モ多シトス故ニ我輩モ清君ノ驥尾ニ従ヒテ破新宗教論一斑ヲ述ヒ試ニ一四ヲ我輩ハ本題ニ対校スル為先ツ我輩ヲ宗教ナト決ニ就キ如何ノ義ヲ理解スルカヲ概解ス可シ我輩ノ宗教ト言フモノハ畢竟空虚ノ幽霊ニ事理ニ掩抱シテ苟モ人ノ真理ヲ曲析スルモノヲ云ヒナリ偶トヘハ仏法家ヲ幽霊ヲ実視シタリト言ヒ人ヲシテ其理ナキト迄ヲハ昂ヲ曰ク吾輩生来度我実視之仮何得疑乎ト答テ云レヲ齒牙ニ越ケ人ヲ人ノ如キ云レナリ和ニノ書所日本ニ於ニノ古今無類ノ新教ヲ立テ年ニ新生ニメリ之ノ宗旨ハ邪蘇教ヲ将ニ我日本

ラ是ナリ供宗ヲ生セントスル人トテ活発ナル慎慨スルモノト異トナリ正サシリ當時ニ於テ大宗ニ対シ新学ニ二百年人ニ崇ラスル的ニテ邪教侵入ノ宗ニ対焼香ノ是ト言ヘハ之ノ新教ニハ焼服ノ怠ラ以テ之レラ歎カサル人ニテラス拙モ新ハ焼服ノ怠トシテ慨歎スル所教トハ何物ヲ是シナシ改革ニ活気ヲ彩ヤ記名猫モ移ラモ之レニ依テ他人ヲ壓倒スル実知実知家ニシナリ之ノ字句ノ本猫ヲハ「サレド」モ実知ニハイケマセヌ之ノ経読ノ以テ佛宗ノ本意所謂佛ノ外ノ意佛スルノ弟子トシ人差ニ已レノ不能ヲ学クレハ只ケ日ノ供ノ過ケ所ラスル実地ニ於テ経ヲサルヲ待スト仏ヲ為ノ事ニテモ之ノ経言ヲテ他人ノ手指ヲ拒ト宗ヲ

マル

少数ニシテ三年前ニ教ヲ学ヒ之ヲ廟堂ニ奉セラル経ヲ講ノ活発ニ今日ニ有リテハ我カ共浪奇ノ討論ニ近ク又ヒタリ而ノ之ノ宗ノ有ル義ニハ正義行ハレス新論発スル能ハス人ニ皆十巳レラ以テ老功ノ聖人ト自度スルニ至ル共宗祖ニ学ハ所ニ学ル諸君モ武セハサシリ之ノ宗ニ傳海セサレザル辛ラ諸君義ニ之レニ注意スル所ヒヤレハ諸レテ録者スル所アレ

十二月十二日

秋豆国七郎左衛門